

志賀原子力発電所2号炉
敷地の地質・地質構造について

補足資料

2019年10月25日
北陸電力株式会社

当資料には商業機密または防護上の観点から公開できないデータを含んでいます。

余白

目次

補足資料1. 1-1

文献調査 1.1-1- 1

補足資料1. 2-1

敷地の地形に関する調査 1.2-1- 1

(1) 航空レーザ計測仕様 1.2-1- 2

(2) 敷地の地形に関する文献調査 1.2-1- 4

補足資料1. 3-1

調査手法 1.3-1- 1

(1) 反射法・VSP探査 1.3-1- 2

補足資料2. 1-1

露頭調査結果 2.1-1- 1

(1) 1・2号機基礎掘削面 2.1-1- 3

(2) 重要な安全機能を有する施設の基礎地盤面等 2.1-1- 7

(3) 海岸部 2.1-1- 31

(4) 防潮堤基礎掘削法面 2.1-1- 33

(4)-1 既往スケッチ・写真データの整理 2.1-1- 35

(4)-2 トレンチ(①~⑧)再掘削調査 2.1-1- 76

(4)-3 岩盤未確認部の周辺地質の確認 2.1-1- 99

補足資料2. 2-1

破砕部周辺の岩石名についての2017.3.10審査会合前後
における対応関係 2.2-1- 1

補足資料2. 2-2

固結した破砕部と岩盤の針貫入試験結果 2.2-2- 1

補足資料2. 3-1

破砕部の幅と長さの関係 2.3-1- 1

補足資料2. 3-2

断層端部の調査結果 2.3-2- 1

(1) S-1端部の調査結果 2.3-2- 2

(2) S-2・S-6端部の調査結果 2.3-2- 9

(3) S-4端部の調査結果 2.3-2- 18

(4) S-5端部の調査結果 2.3-2- 23

(5) S-7端部の調査結果 2.3-2- 27

(6) S-8端部の調査結果 2.3-2- 33

(7) S-9端部の調査結果 2.3-2- 41

(8) B-1端部の調査結果 2.3-2- 45

(9) B-2端部の調査結果 2.3-2- 51

(10) B-3端部の調査結果 2.3-2- 55

(11) K-1端部の調査結果

(12) K-2端部の調査結果

(13) K-3端部の調査結果

(14) K-4端部の調査結果

(15) K-5端部の調査結果

(16) K-6端部の調査結果

(17) K-7端部の調査結果

(18) K-8端部の調査結果

(19) K-9端部の調査結果

(20) K-10端部の調査結果

(21) K-11端部の調査結果

(海岸部の断層についての調査結果を整理し、次回以降説明)

目次

補足資料2. 3-3

断層分布(陸域)の水平方向・深度方向のデータ 2.3-3- 1
(1) S-1とB-1の水平方向・深度方向のデータ 2.3-3- 3
(2) S-1とS-4の水平方向・深度方向のデータ 2.3-3- 8
(3) S-1とS-9の水平方向・深度方向のデータ 2.3-3- 15
(4) S-1とB-2の水平方向・深度方向のデータ 2.3-3- 20
(5) S-1とS-2・S-6の水平方向・深度方向のデータ 2.3-3- 25
(6) S-2・S-6とS-8の水平方向・深度方向のデータ 2.3-3- 31
(7) S-2・S-6とB-2の水平方向・深度方向のデータ 2.3-3- 37
(8) S-2・S-6とS-7の水平方向・深度方向のデータ 2.3-3- 42
(9) S-2・S-6とS-9の水平方向・深度方向のデータ 2.3-3- 47
(10) S-2・S-6とB-3の水平方向・深度方向のデータ 2.3-3- 52
(11) S-4とS-5の水平方向・深度方向のデータ 2.3-3- 57
(12) S-4とB-1の水平方向のデータ 2.3-3- 64

補足資料2. 4-1

破碎部性状一覧表 2.4-1- 1
(1) S-1～B-3の性状一覧表 2.4-1- 2
(2) K-1～K-11の性状一覧表	
(海岸部の断層についての調査結果を整理し、次回以降説明)	

補足資料2. 4-2

X線回折分析結果 2.4-2- 1
(1) 2号機建設以前の調査 2.4-2- 2
(2) 2号機建設以後の調査 2.4-2- 20

補足資料2. 4-3

S-4北東部への連続性に関する調査結果 2.4-3- 1
(1) 申請時からの変更経緯 2.4-3- 2
(2) 申請時までの調査結果の見直し 2.4-3- 5
(3) ボーリング及び露頭で確認した破碎部の一覧 2.4-3- 19
(4) 露頭調査結果 2.4-3- 21
(5) 薄片観察結果 2.4-3- 26

補足資料2. 5-1

運動方向調査結果 2.5-1- 1
(1) 最新面及び変位センスの認定方法について 2.5-1- 2
(2) 条線観察結果 2.5-1- 4
(2)-1 S-1の条線観察結果 2.5-1- 5
(2)-2 S-2・S-6の条線観察結果 2.5-1- 92
(2)-3 S-4の条線観察結果 2.5-1-121
(2)-4 S-5の条線観察結果 2.5-1-137
(2)-5 S-7の条線観察結果 2.5-1-142
(2)-6 S-8の条線観察結果 2.5-1-157
(2)-7 S-9の条線観察結果 2.5-1-166
(2)-8 B-1の条線観察結果 2.5-1-171
(2)-9 B-2の条線観察結果 2.5-1-177
(2)-10 B-3の条線観察結果 2.5-1-182
(3) 露頭観察・コア観察・研磨片観察・薄片観察結果 2.5-1-186
(3)-1 S-1の研磨片観察結果 2.5-1-187
(3)-2 S-1の薄片観察結果 2.5-1-190
(3)-3 S-2・S-6の露頭観察結果(会合部) 2.5-1-197
(3)-4 S-2・S-6の薄片観察結果 2.5-1-199
(3)-5 S-4のコア観察結果 2.5-1-207
(3)-6 S-4の薄片観察結果 2.5-1-210
(3)-7 S-7の薄片観察結果 2.5-1-213
(3)-8 S-8の薄片観察結果 2.5-1-217
(3)-9 B-3の薄片観察結果 2.5-1-222
(3)-10 K-1～K-4の研磨片観察結果	
(3)-11 K-5の薄片観察結果	
(3)-12 K-2, K-3の露頭観察結果(各会合部)	
(海岸部の断層についての調査結果を整理し、次回以降説明)	

目次

補足資料5. 1-1

上載地層法に用いる地層に関する調査結果 5.1-1- 1
(1) 地質調査結果 5.1-1- 2
(2) 火山灰分析結果 5.1-1- 26
(3) S-2・S-6 No.2トレンチにおける薄片観察結果 5.1-1- 44
(4) 遊離酸化鉄分析結果 5.1-1- 81
(5) 中位段丘 I 面にステージ5cの段丘堆積物が混在しないことに関する検討 5.1-1- 85
(6) H I a段丘堆積物の堆積年代に関する海水準変動曲線と能登半島南西岸の隆起速度を用いた検討 5.1-1- 89

補足資料5. 1-2

敷地の安山岩に関する調査結果 5.1-2- 1
(1) 薄片観察結果 5.1-2- 2
(2) K-Ar年代分析結果 5.1-2- 5
(3) 化学分析結果 5.1-2- 25

補足資料5. 1-3

変質鉱物に関する調査結果 5.1-3- 1
(1) 試料採取位置 5.1-3- 2
(2) XRD分析(粘土分濃集)結果 (I/S混合層の構造判定, 八面体シート構造判定) 5.1-3- 13
(3) 粘土鉱物のEPMA分析結果 5.1-3- 26
(4) 粘土鉱物のCEC分析, XAFS分析結果 5.1-3- 35
(5) XRD分析結果(白色鉱物脈) 5.1-3- 41
(6) 変質鉱物の生成温度の検討結果 5.1-3- 48
(7) 斜長石のアルバイト化の検討 5.1-3- 53
(8) 粘土鉱物のK-Ar年代分析の信頼性確認 5.1-3- 60

補足資料5. 2-1

活動性評価に関する調査結果(S-1) 5.2-1- 1
(1) 露頭調査結果 5.2-1- 2
(1)-1 旧A・Bトレンチ 5.2-1- 3
(1)-2 掘削法面 5.2-1- 17
(2) 薄片観察 5.2-1- 20
(2)-1 K-10.3SW孔 5.2-1- 21
(2)-2 岩盤調査坑No.25切羽 5.2-1- 24
(2)-3 M-12.5”孔 5.2-1- 29
(3) SEM観察 5.2-1- 35

補足資料5. 3-1

活動性評価に関する調査結果(S-2・S-6) 5.3-1- 1
(1) 露頭調査結果 5.3-1- 2
(1)-1 No.1トレンチ 5.3-1- 3
(1)-2 事務本館前トレンチ 5.3-1- 9
(2) 薄片観察 5.3-1- 13
(2)-1 K-6.2-2孔 5.3-1- 14
(2)-2 E-8.5-2孔 5.3-1- 17
(3) SEM観察 5.3-1- 20

目次

補足資料5. 4-1

活動性評価に関する調査結果(S-4) 5.4-1- 1
(1) 露頭調査結果 5.4-1- 2
(1)-1 35m盤トレンチ 5.4-1- 3
(1)-2 S-4トレンチ 5.4-1- 7
(2) 薄片観察 5.4-1- 19
(2)-1 E-11.1SE-2孔 5.4-1- 20
(3) SEM観察 5.4-1- 23

補足資料5. 6-1

活動性評価に関する調査結果(S-7) 5.6-1- 1
(1) 薄片観察 5.6-1- 2
(1)-1 H-5.7' 孔 5.6-1- 3

補足資料6. 2-1

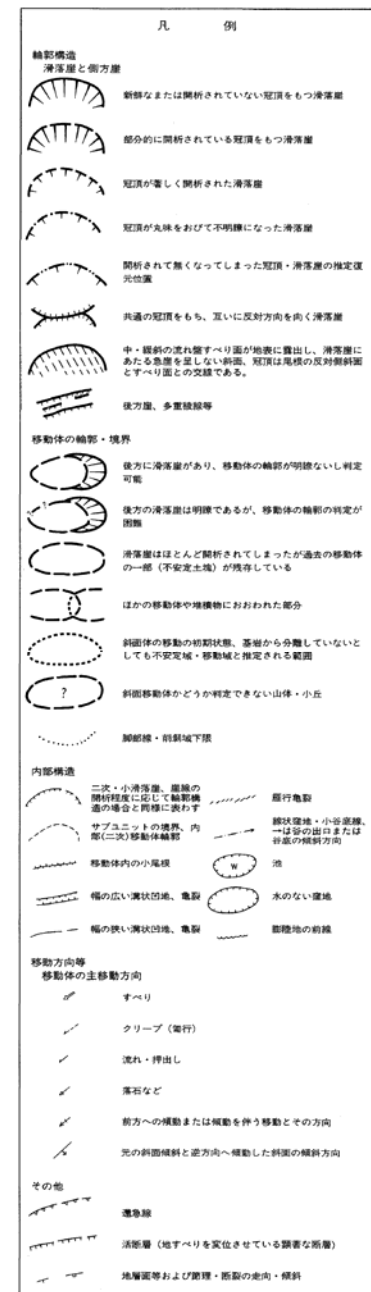
S-2・S-6周辺の地形等に関する調査結果 6.2-1- 1
(1) S-2・S-6周辺の地形 6.2-1- 2
(2) 凸状地形に関する調査データ 6.2-1- 14

参考文献

..... 参-1

補足資料1. 1－1

文献調査

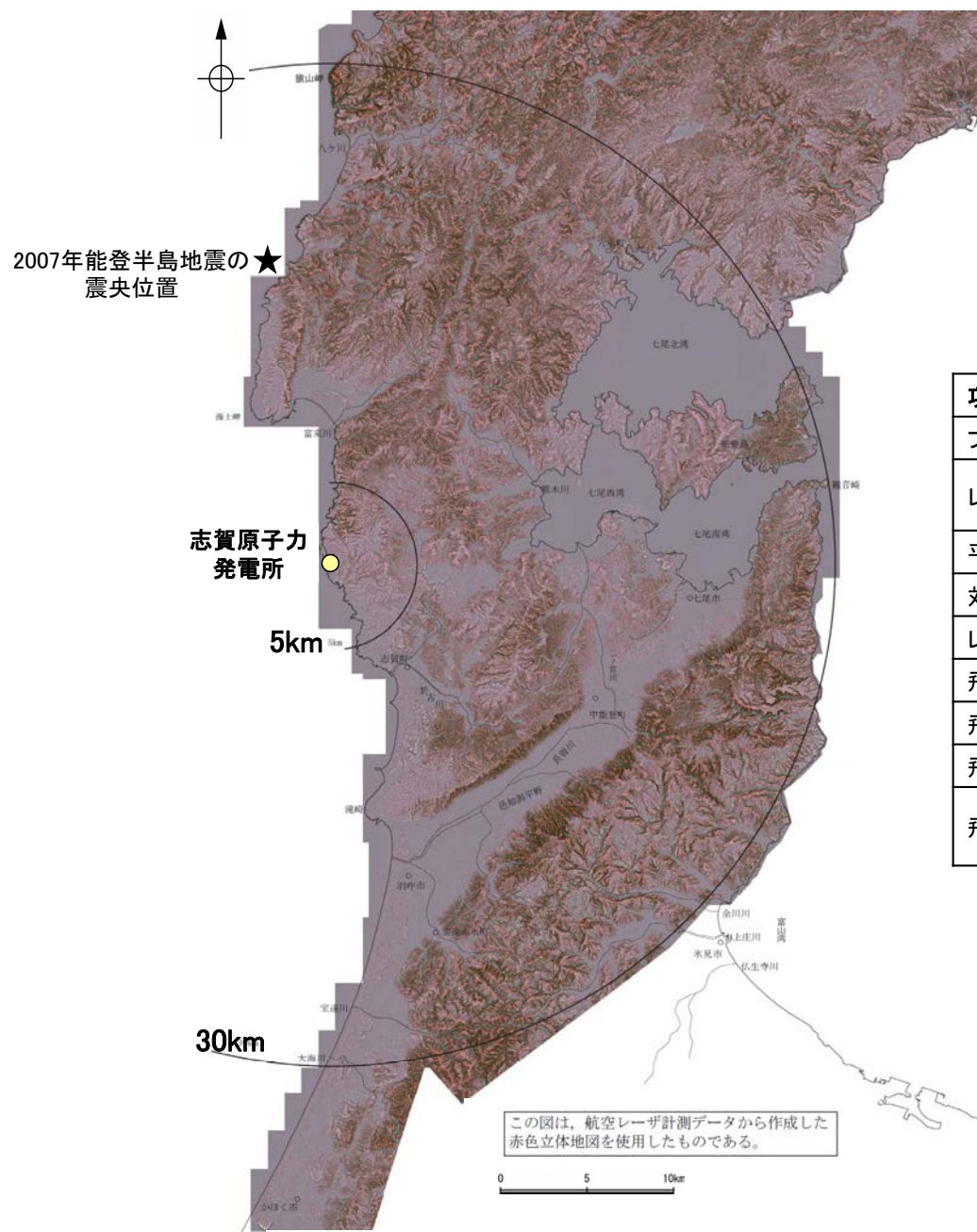


能登半島中部の地すべり地形分布図(防災科学技術研究所, 2001に一部加筆)

補足資料1. 2-1

敷地の地形に関する調査

(1) 航空レーザー計測仕様

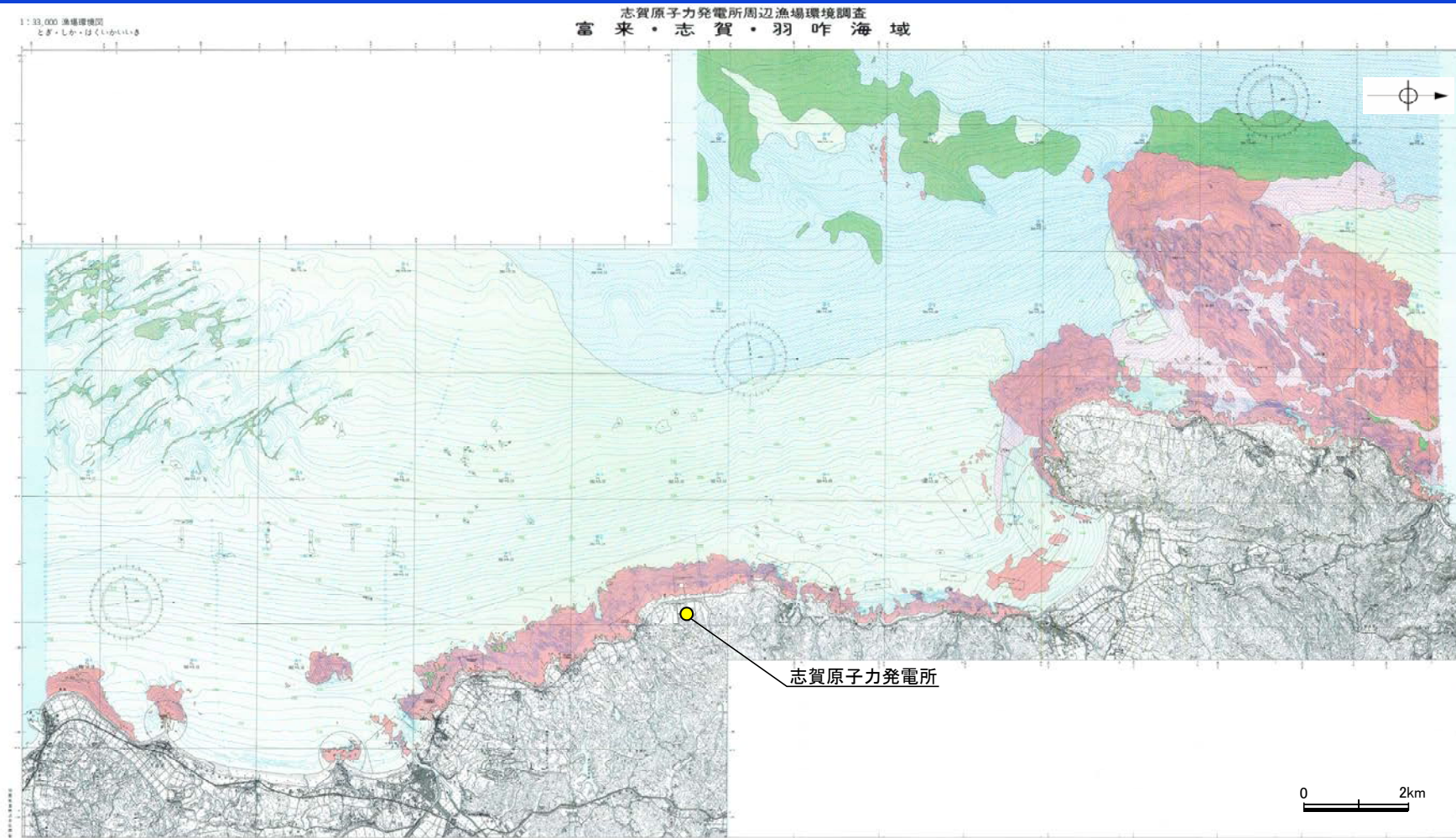


航空レーザ計測仕様(野原ほか,2007)

項目	平均パラメータ	
プラットフォーム(航空機)	C207	C404・Tu206g
レーザ装置	Optech社製 ALTM3100	Leica社製 ALS50
平均対地高度	1,200m	
対地速度	65m/sec	
レーザ照射頻度	70,000Hz	
飛行コース間の距離	約385m	
飛行コース間の計測幅の重複割合	35%	
飛行直角方向の取得点間隔	約0.7m	
飛行コース数	174(地震※前計測:2006年10~12月) 56(地震※後計測:2007年3~4月)	

※2007年能登半島地震

(2) 敷地の地形に関する文献調査



漁場環境図(石川県, 1997(に一部加筆))

余白

補足資料1. 3-1

調査手法

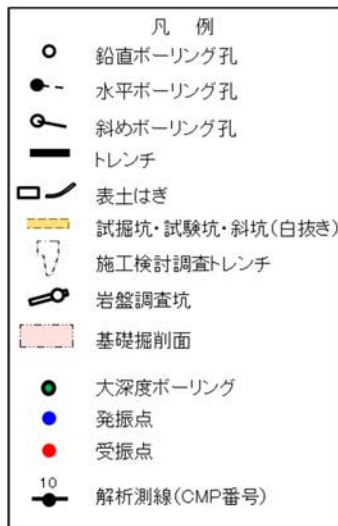
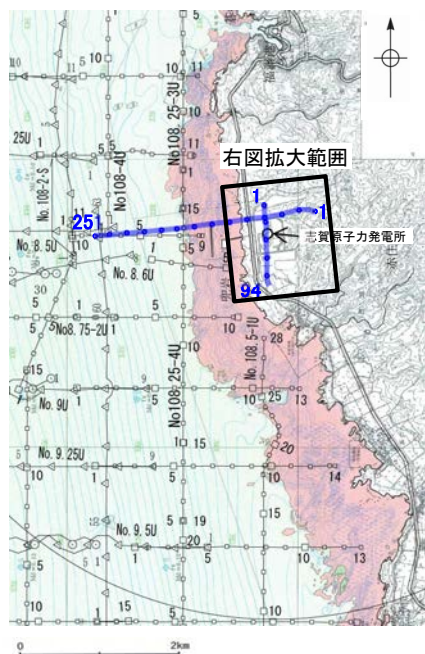
(1) 反射法・VSP探査

反射法・VSP探査仕様

○大深度ボーリングを通るように、東西測線(約3.1km)、南北測線(約1.2km)を配置し、25～50m間隔で発振した地震波を反射法探査は地表受振点、VSP探査はボーリング孔内受振点で収録。

発振源仕様

	発振源	仕様	発振間隔
陸域	大型パイブレータ	<ul style="list-style-type: none"> ・18t×2台 ・起振マス: 2.3t, 2.6t(最大荷重18t) ・発振周波数: 10-70Hz 	50m
海域	エアガン	<ul style="list-style-type: none"> ・480cu.in. 	25m

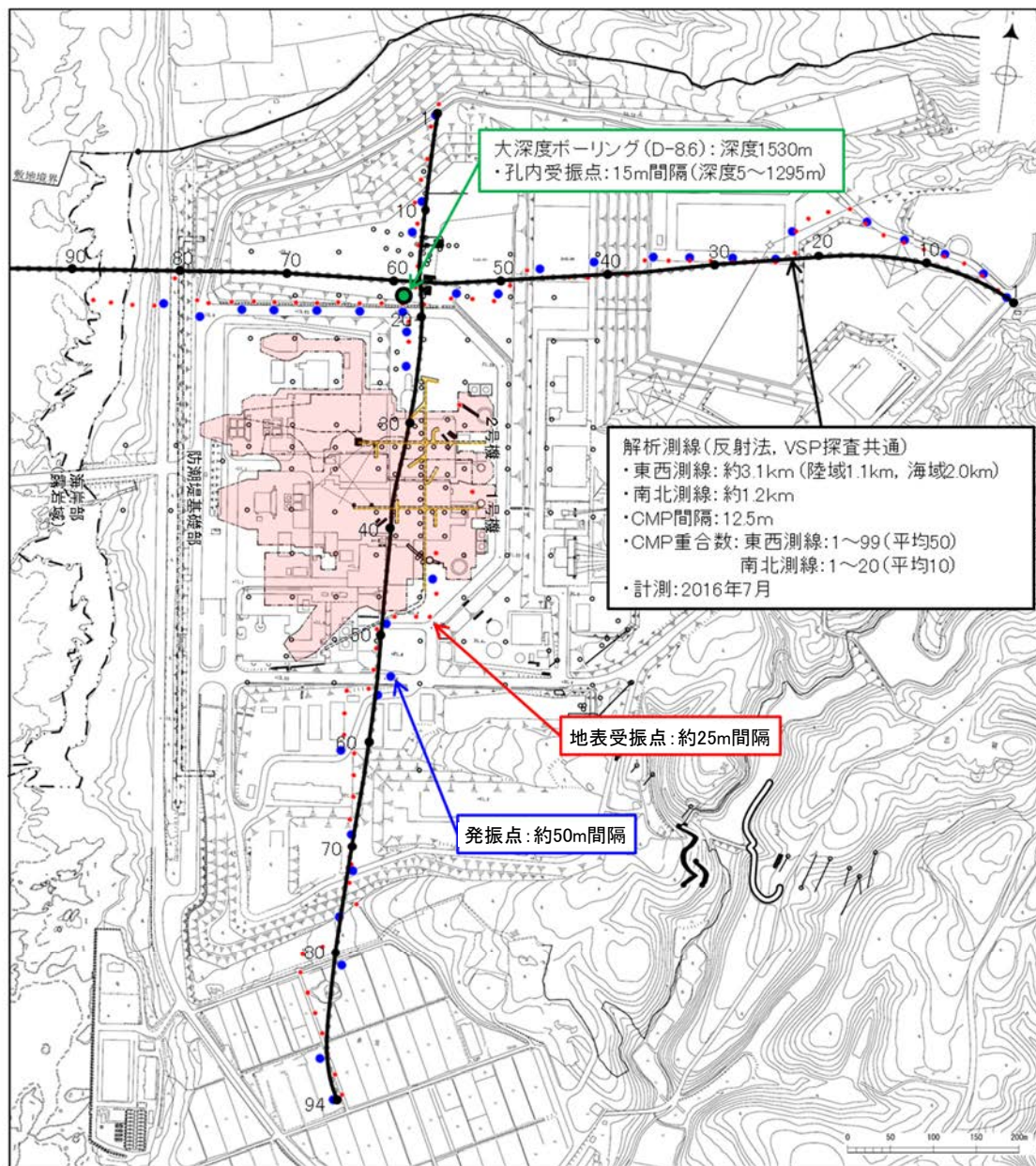


調査位置図(石川県, 1997に一部加筆)

— 解析測線 東西測線: 約3.1km(陸域: 1.1km, 海域2.0km)
南北測線: 約1.2km(陸域のみ)

- No.8 調査測線(北陸電力: スーパー・シングルチャンネル・約2450ジュール)
- No.9-S 調査測線(北陸電力: スーパー・シングルチャンネル・約360ジュール)
- No.8U 調査測線(北陸電力: プーマー・マルチチャンネル・約200ジュール)

- 岩石
- 中砂
- 細砂



調査位置図(拡大範囲)

反射断面における分解能①

- 垂直分解能の考え方については、レイリー基準とリックカー基準がある。

➤ レイリー基準
$$d_{TUNING} = \frac{V_{INT}}{4 \cdot f_{PRED}} = \frac{\lambda_{PRED}}{4}$$

d_{TUNING} : 判別可能層厚 V_{INT} : 区間速度
 f_{PRED} : 卓越周波数 λ_{PRED} : 卓越波長

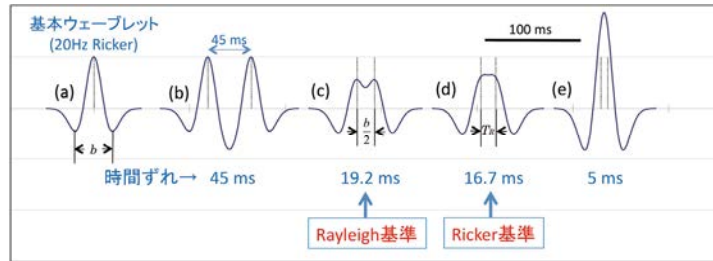
Rayleighによると、二つの同極性の反射波を分離できる限界は1/2周期(波形の山と谷)以上の時間差がないと判別できない。したがって、反射波は反射面からの往復測定で測定しているので1/2周期の半分、つまり1/4周期以上の時間差を生じる層厚を持った地層でないと判別できないことになる(Rayleighの1/4波長則)。

(物理探査学会, 2008)

➤ リッカー基準
$$d_{TUNING} = \frac{V_{INT}}{4.6 \cdot f_{PRED}} = \frac{\lambda_{PRED}}{4.6}$$

Ricker(1953)は、二つの同じ極性の基本ウェーブレットをずらして重ねた時に、その主ピークが分離できなくなる限界の時間間隔を、垂直分解能に対応するものと定義した。

(高橋, 2017)



レイリー基準とリックカー基準の違い(縦線は基本ウェーブレットのピーク位置)
(高橋, 2017)

- 両者は比較的近い値を取り、違いは15%程度であることから、一般的には簡便な計算で算出できるレイリー基準が使われる事が多い(物理探査学会, 2016)。
- 本検討ではレイリー基準で検討を行う。

○レイリー基準の詳細(高橋, 2017)

下図から、時間差が $b/2$ の異なる極性を持つウェーブレットを重ね合わせると、波形は(a)の様に強め合い、同じ極性を持つウェーブレットを重ね合わせると、(b)の様に波形は弱め合う。(b)で、さらに2つのウェーブレットの時間ずれを小さくすると、2つのピークは分離・識別ができなくなる。

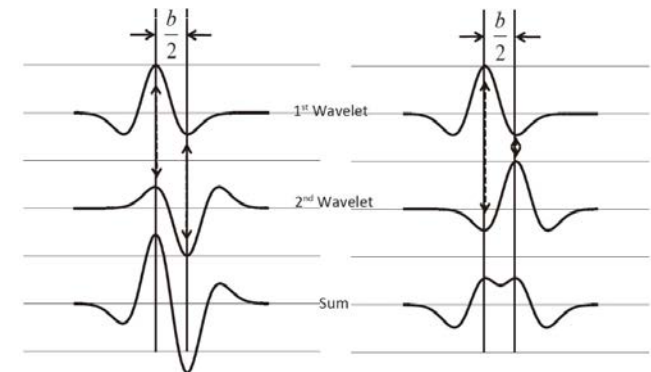
$b/2$ は卓越周波数 f_{PRED} に対応する卓越周期の1/2に対応する。

反射法地震探査における時間差 $b/2$ に対応する地層の厚さを Tuning Thickness (Δd_{TUNING}) といい、その層厚は、

$$\Delta d_{TUNING} = \frac{V_{INT} \cdot \left(\frac{b}{2}\right)}{2} = \frac{V_{INT}}{2} \cdot \frac{1}{(2 \cdot f_{PRED})} = \frac{\lambda_{PRED}}{4}$$

λ_{PRED} : 卓越波長
 f_{PRED} : 卓越周波数
 V_{INT} : 区間速度

で計算される。

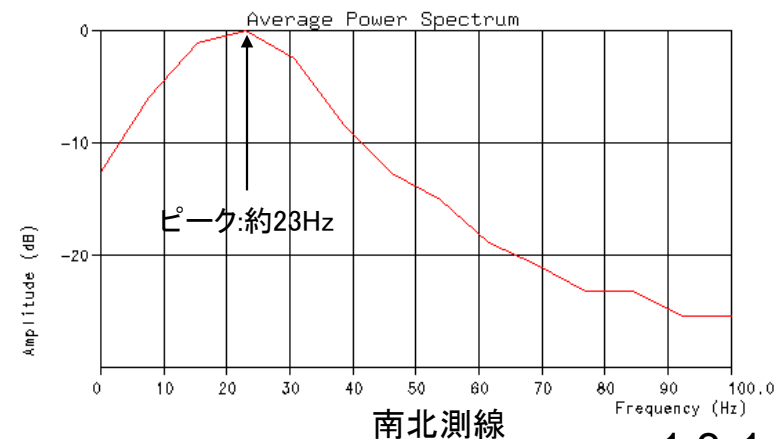
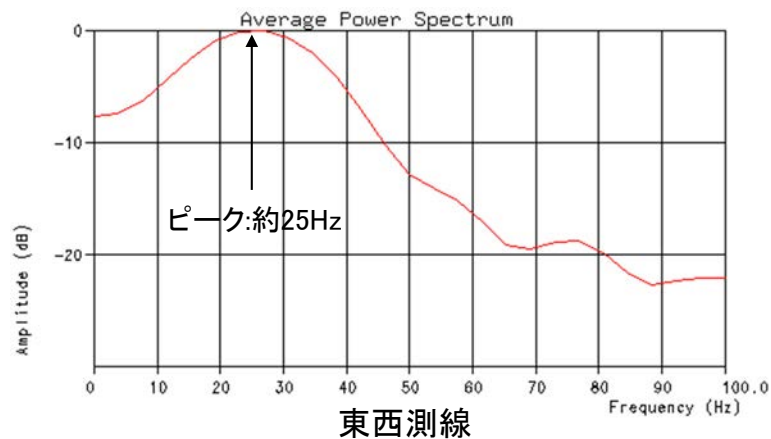
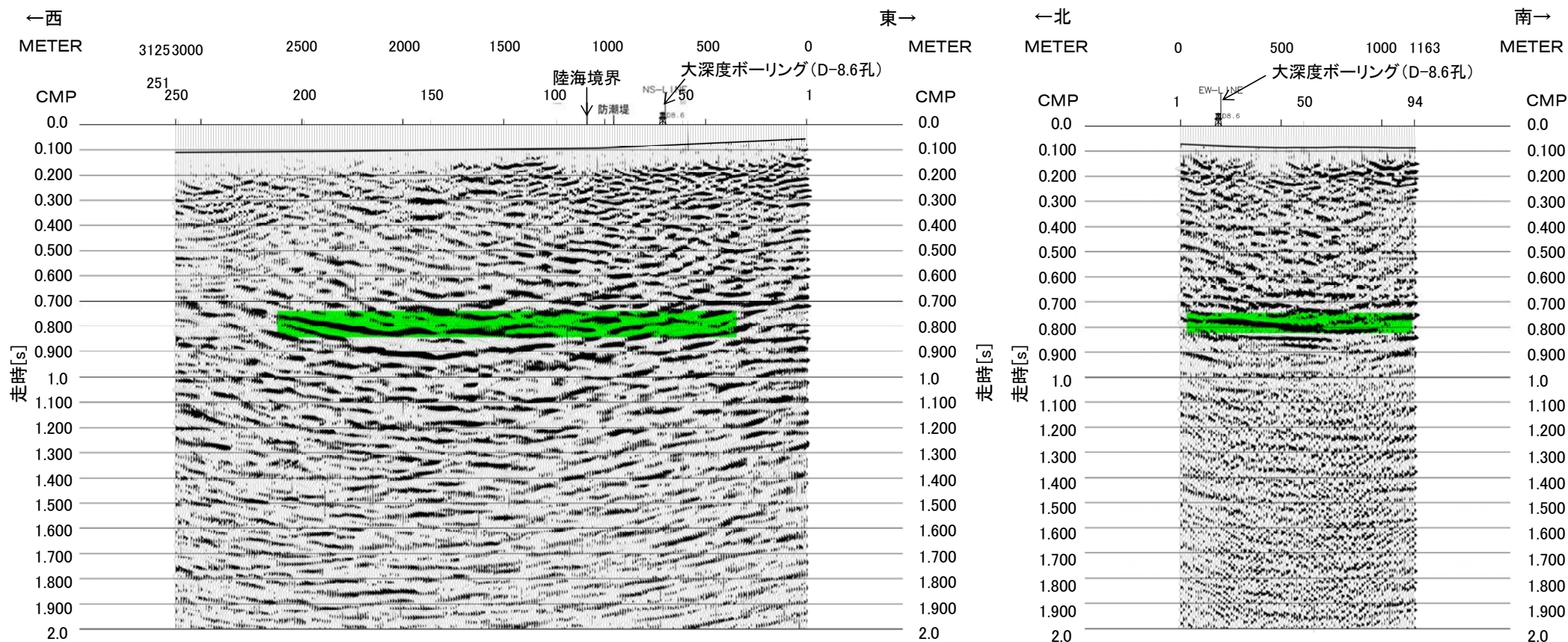


(a) 逆極性のウェーブレットの重ね合わせによる振幅の増加
(b) 同極性のウェーブレットの重ね合わせによる振幅の減少と分離の限界

ウェーブレットの重ね合わせによる振幅変化と分離の限界
(高橋, 2017を一部修正)

反射断面における分解能②

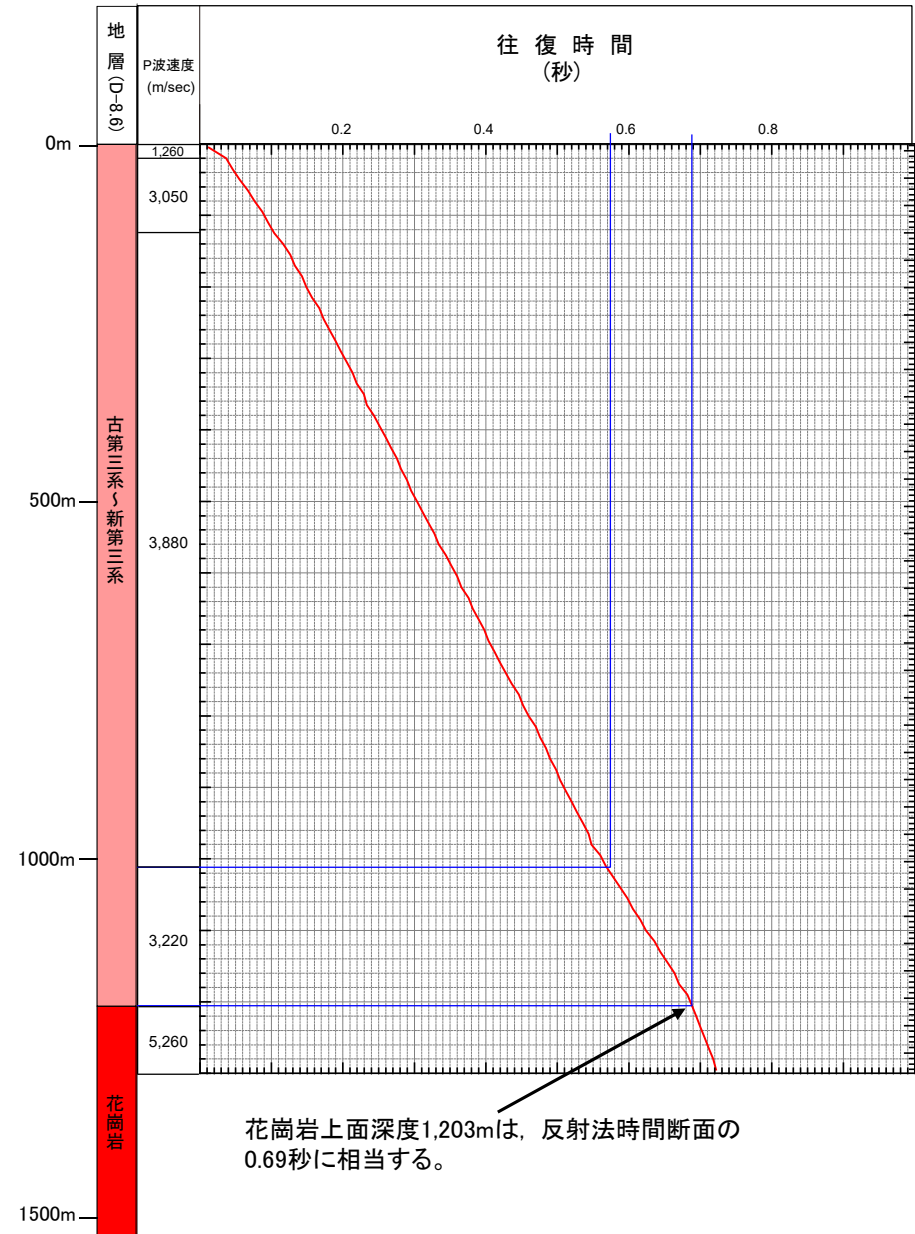
- 主に花崗岩上面からの反射面を含む範囲(下図の緑色の範囲)に対して、スペクトル解析を適用した結果、卓越周波数は、東西測線で約**25Hz**、南北測線で約**23Hz**となる。



スペクトル解析結果

- ゼロオフセットVSP解析により得られた初動データからP波速度を計算した結果、花崗岩直上で**3,220m/秒**である。
- 反射断面の反射面領域の周波数分布及び卓越周波数について、垂直分解能の計算を行った結果、花崗岩上面の反射面付近でおよそ**32~35m**となる。

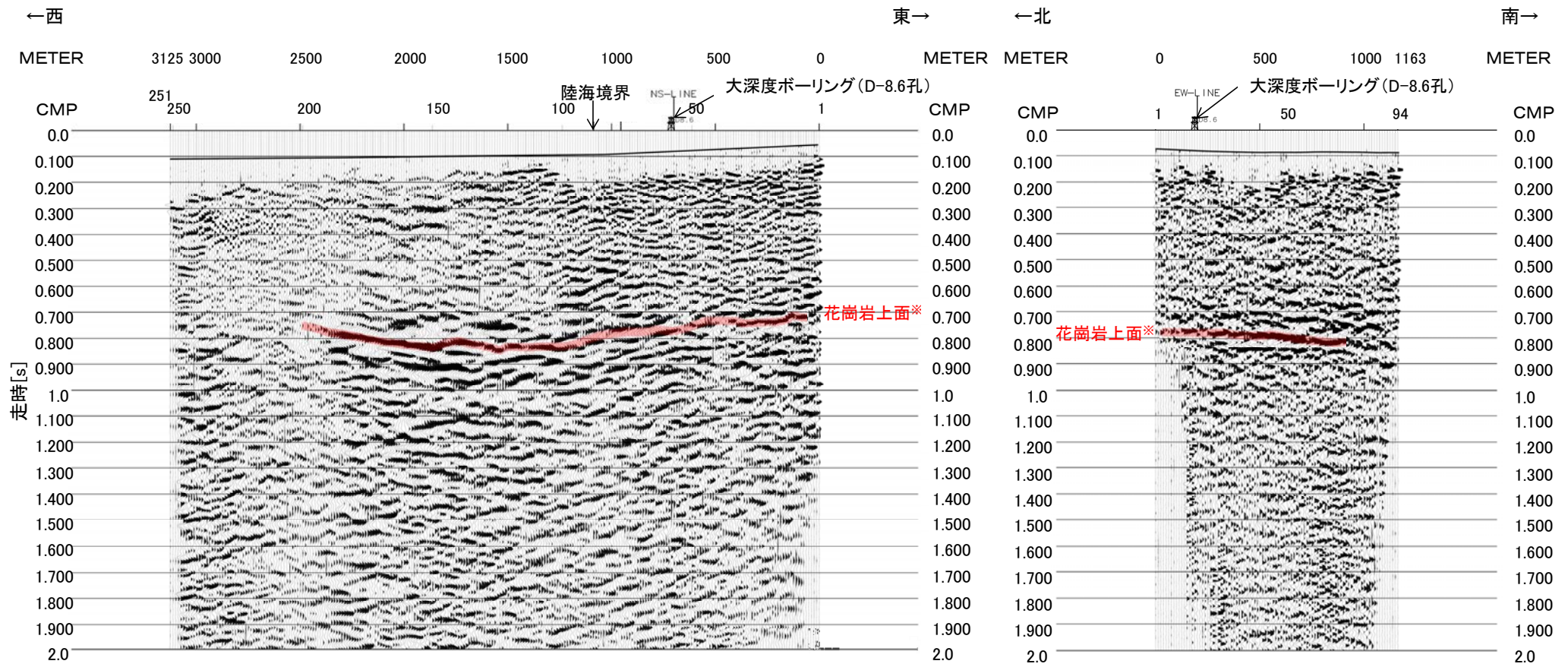
	(a) P波速度 (m/sec)	(b) 周波数 (Hz)	(c)=(a)/(b) 波長 (m)	垂直分解能(m)	
				(d)=(c)/4 レイリー基準	(e)=(c)/4.6 リッカー基準
花崗岩 上面	3,220	23	140	35	30
		25	129	32	28



花崗岩上面深度1,203mは、反射法時間断面の0.69秒に相当する。

初動読み取り結果とP波区間速度分布

反射法地震探査結果(時間断面:マイグレーション処理前)

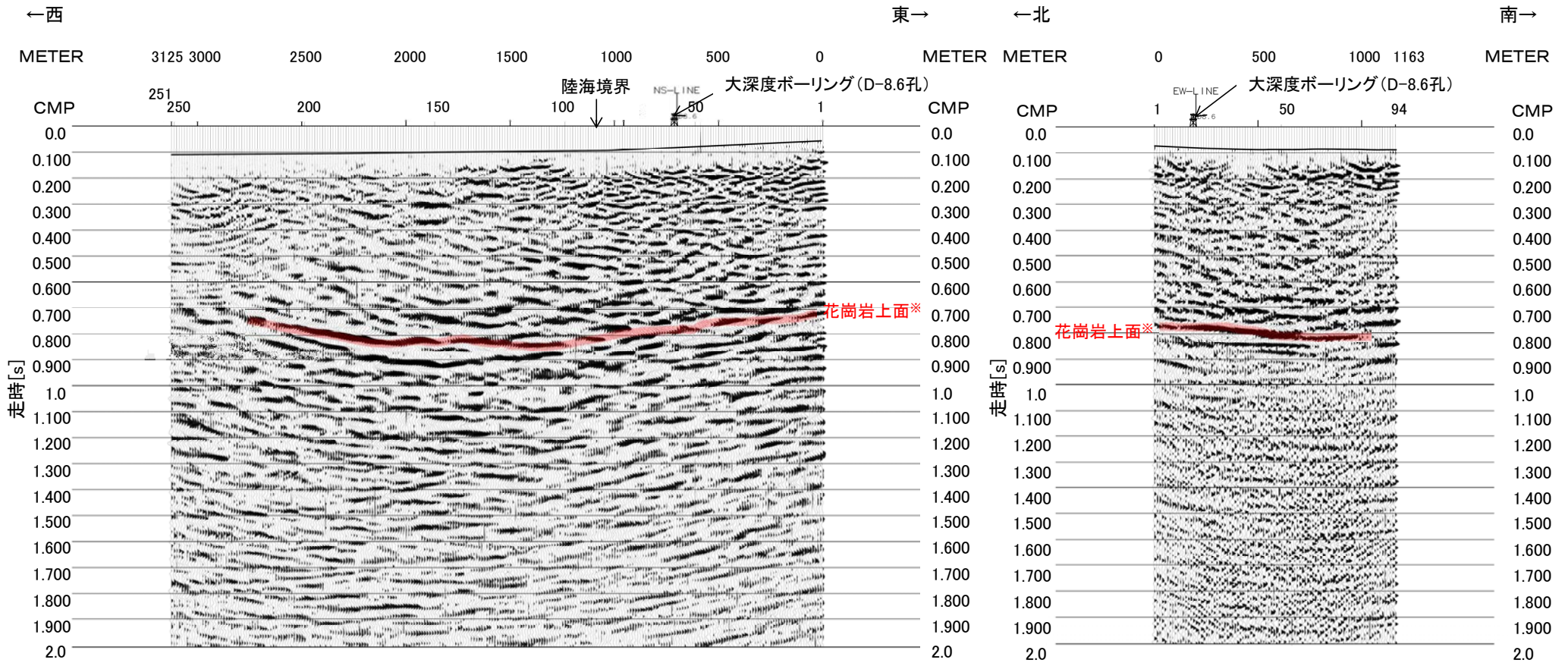


反射法地震探査結果(東西測線:時間断面)

反射法地震探査結果(南北測線:時間断面)

※VSP探査結果に基づいて花崗岩上面をトレース

反射法地震探査結果(時間断面:マイグレーション処理後)



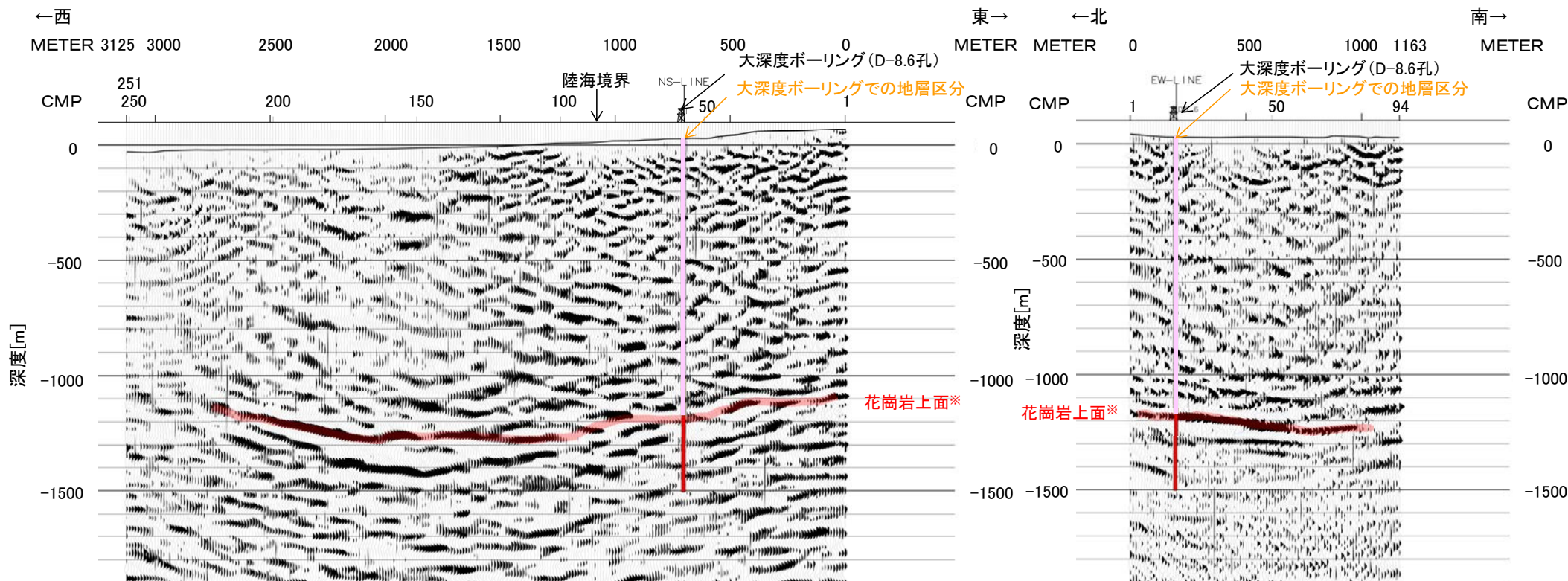
反射法地震探査結果(東西測線:時間断面)

反射法地震探査結果(南北測線:時間断面)

※VSP探査結果に基づいて花崗岩上面をトレース

反射法地震探査結果(深度断面)

・マイグレーション処理後の時間断面から深度変換を行い作成。



反射法地震探査結果(東西測線:深度断面)

反射法地震探査結果(南北測線:深度断面)

※VSP探査結果に基づいて花崗岩上面をトレース

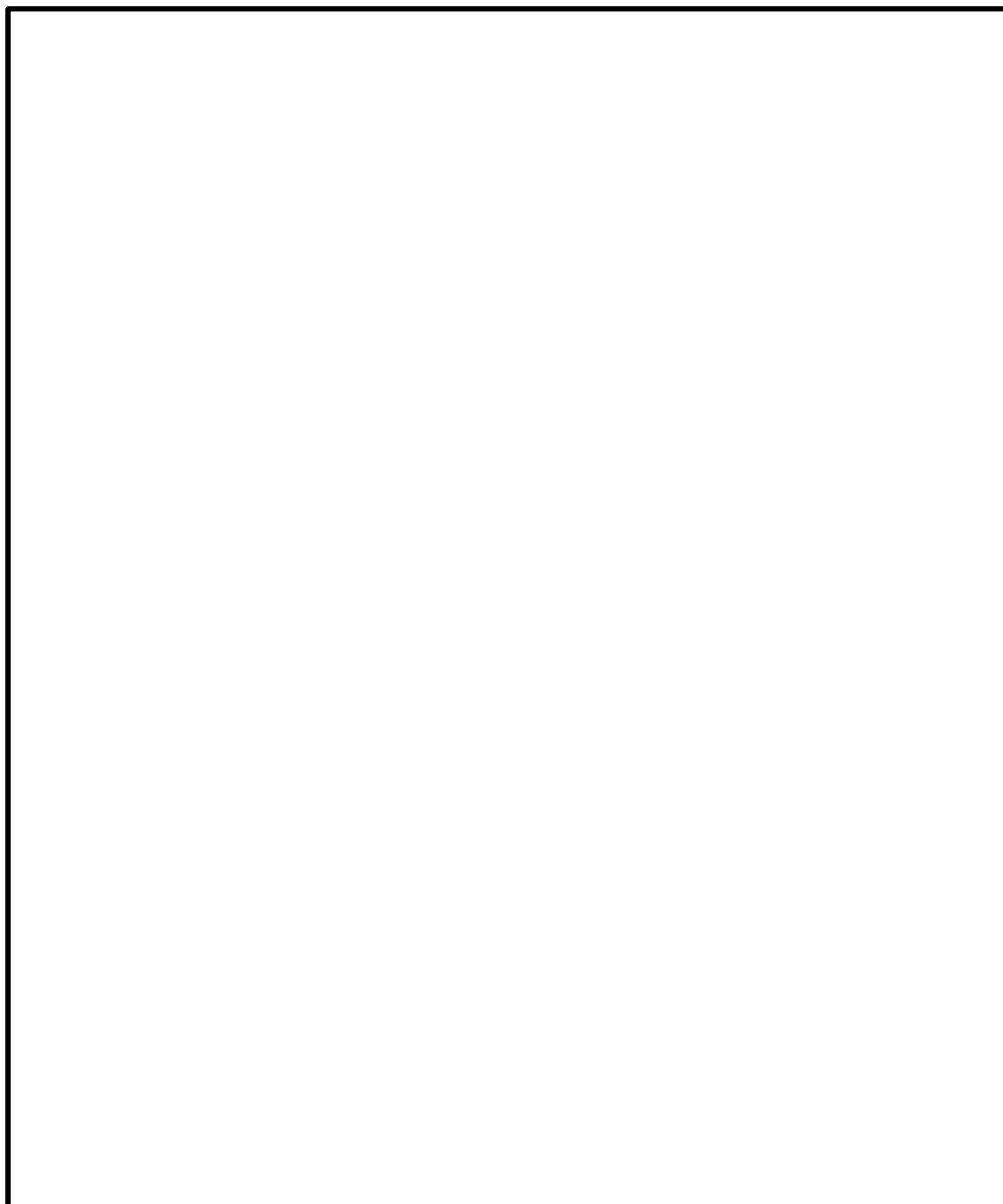
大深度ボーリングでの地層区分

- : 古第三系～新第三系
- : 花崗岩

余白

補足資料2. 1－1

露頭調查結果

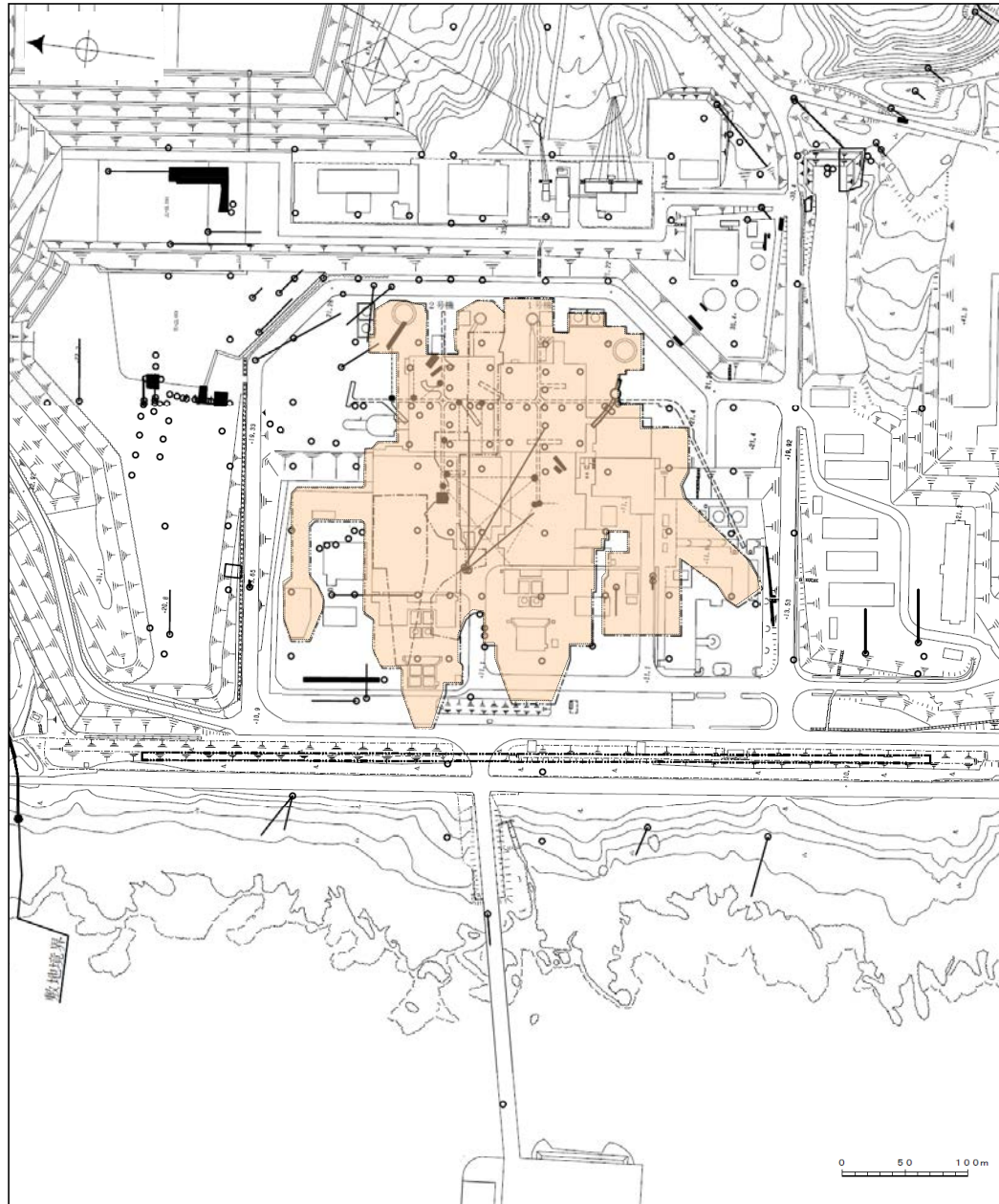


- 凡 例
- 鉛直ボーリング孔
 - 水平ボーリング孔
 - 斜めボーリング孔
 - トレンチ
 - 表土はぎ
 - 試掘坑・試験坑・斜坑
 - 岩盤調査坑
 - 1・2号機基礎掘削面(1・2号機建設時の掘削範囲)
 - 露頭調査範囲
 - ・1・2号機基礎掘削面(1・2号機建設時の掘削範囲)
 - ・重要な安全機能を有する施設の基礎地盤面等
 - ・防潮堤基礎部
 - ・海岸部(露岩域)
- 重要な安全機能を有する施設
(検討中のものを含む)
- ○ — 耐震重要施設
 - ○ — 重大事故等対処施設

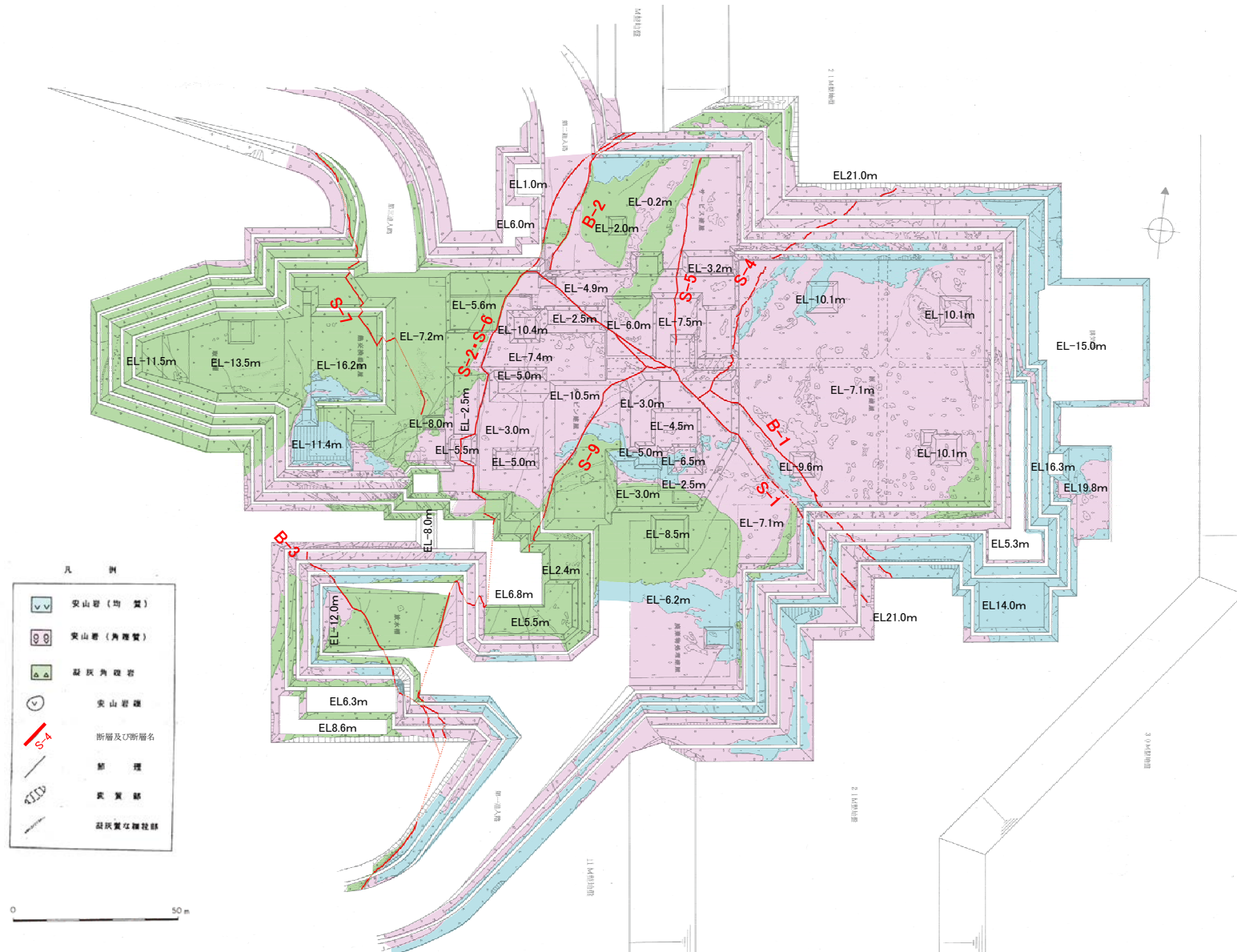
枠囲みの内容は商業機密又は防護上の観点から公開できません。

(1) 1・2号機基礎掘削面

1・2号機基礎掘削面 位置図

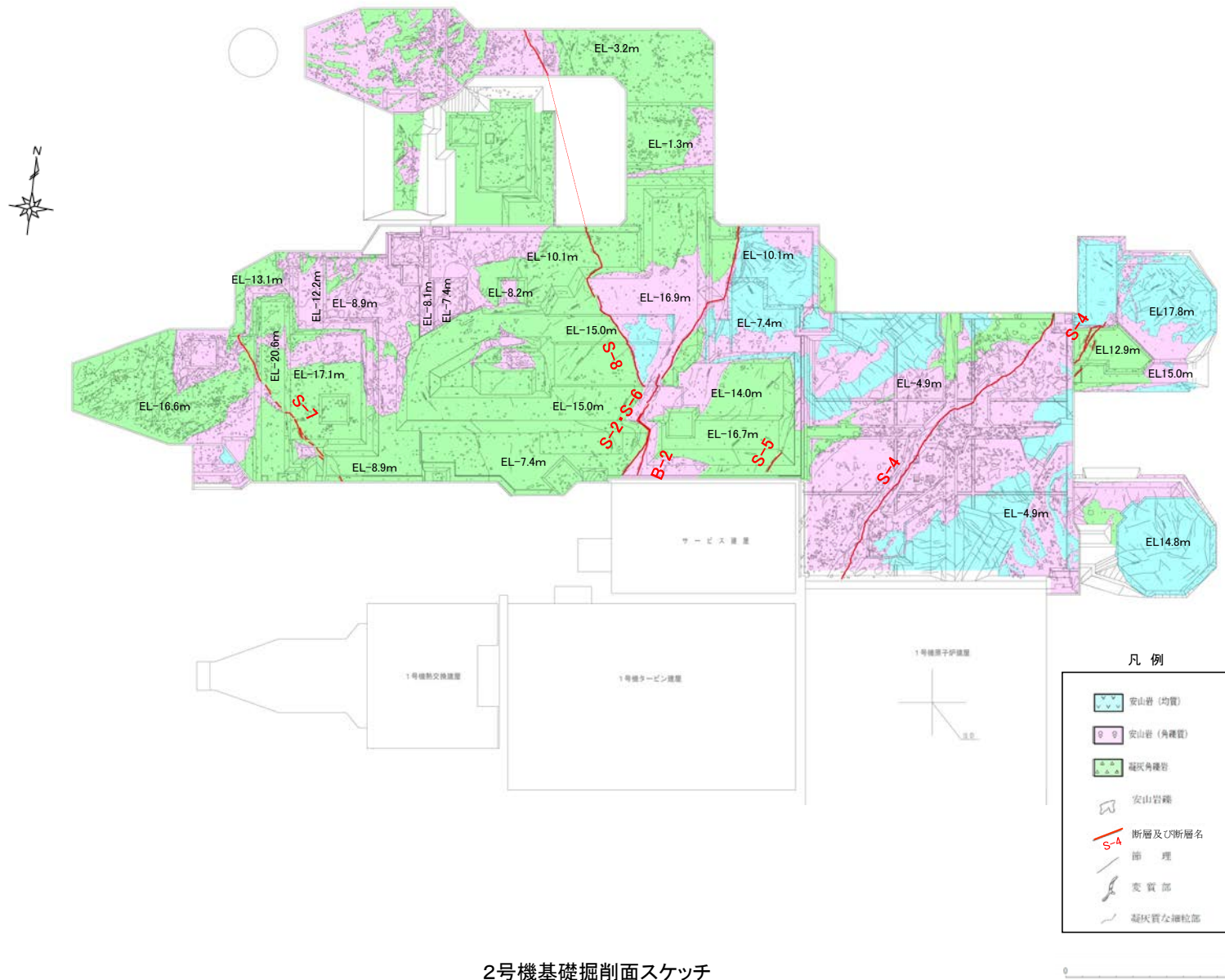


- 凡 例
- 鉛直ボーリング孔
 - 水平ボーリング孔
 - ◐ 斜めボーリング孔
 - トレンチ
 - 表土はぎ
 - - - 試掘坑・試験坑・斜坑
 - ◑ 岩盤調査坑
 - - - 1・2号機基礎掘削面(1・2号機建設時の掘削範囲)
 - 露頭調査範囲
- (・1・2号機基礎掘削面(1・2号機建設時の掘削範囲))



1号機基礎掘削面スケッチ

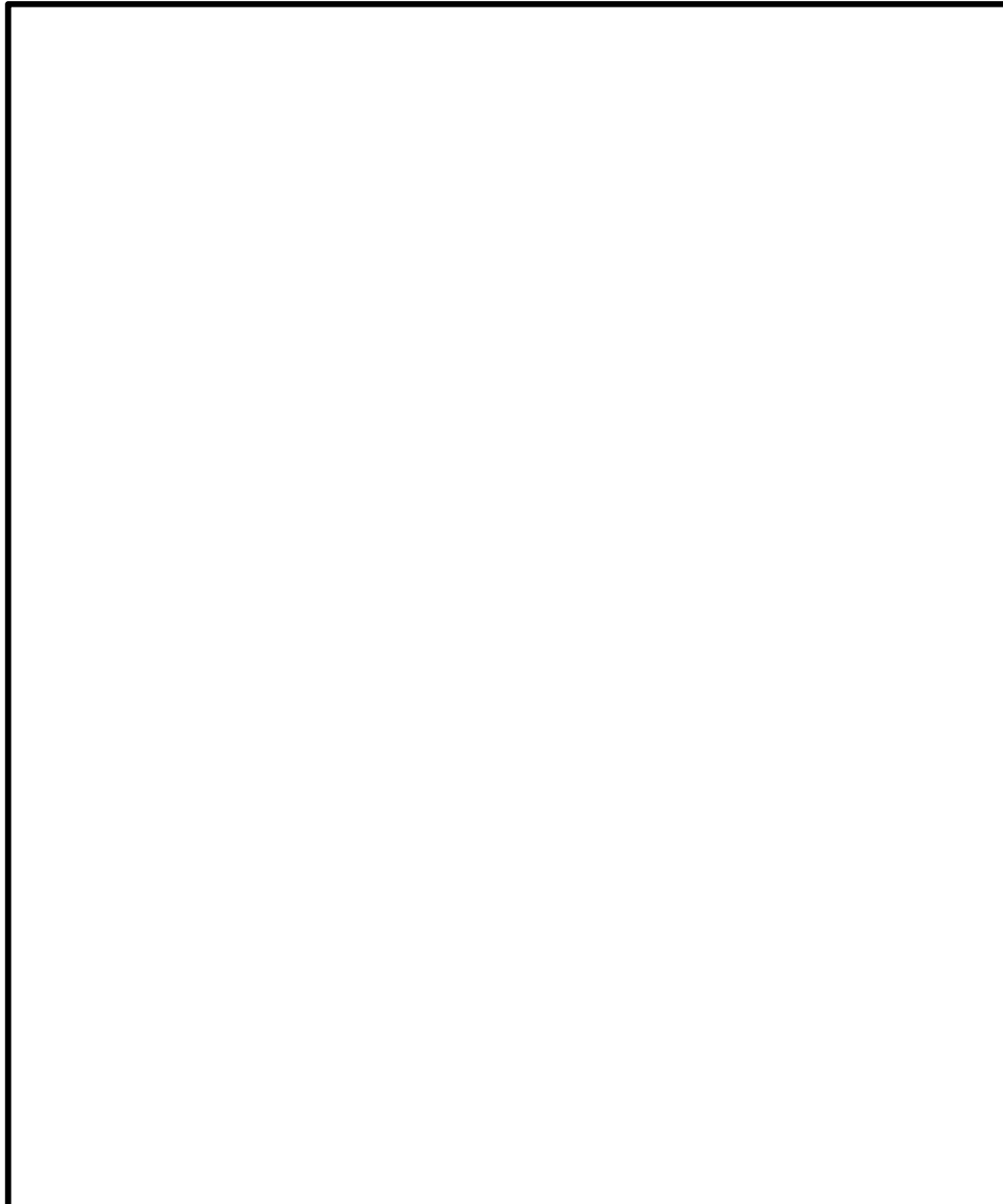
・1号機基礎掘削面では、断層が9条確認される。



2号機基礎掘削面スケッチ

・2号機基礎掘削面では、断層が6条確認される。

(2) 重要な安全機能を有する施設の基礎地盤面等



- 凡 例
- 鉛直ボーリング孔
 - 水平ボーリング孔
 - 斜めボーリング孔
 - トレンチ
 - 表土はぎ
 - 試掘坑・試験坑・斜坑
 - 岩盤調査坑
 - 1・2号機基礎掘削面(1・2号機建設時の掘削範囲)
 - 露頭調査範囲
〔・重要な安全機能を有する施設の基礎地盤面等〕

重要な安全機能を有する施設
(検討中のものを含む)

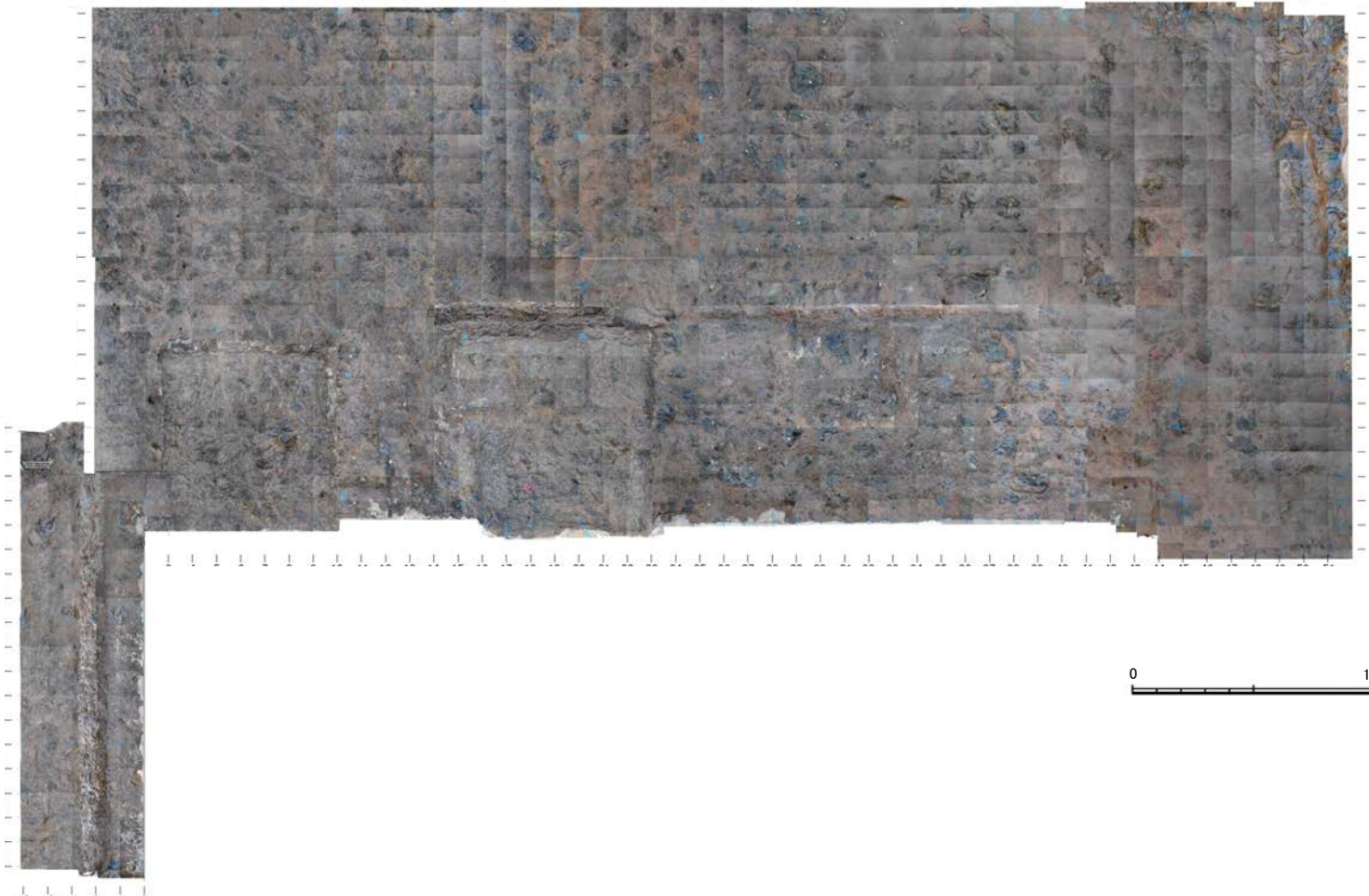
- ○ — 耐震重要施設
- ○ — 重大事故等対処施設

枠囲みの内容は商業機密又は防護上の観点から公開できません。

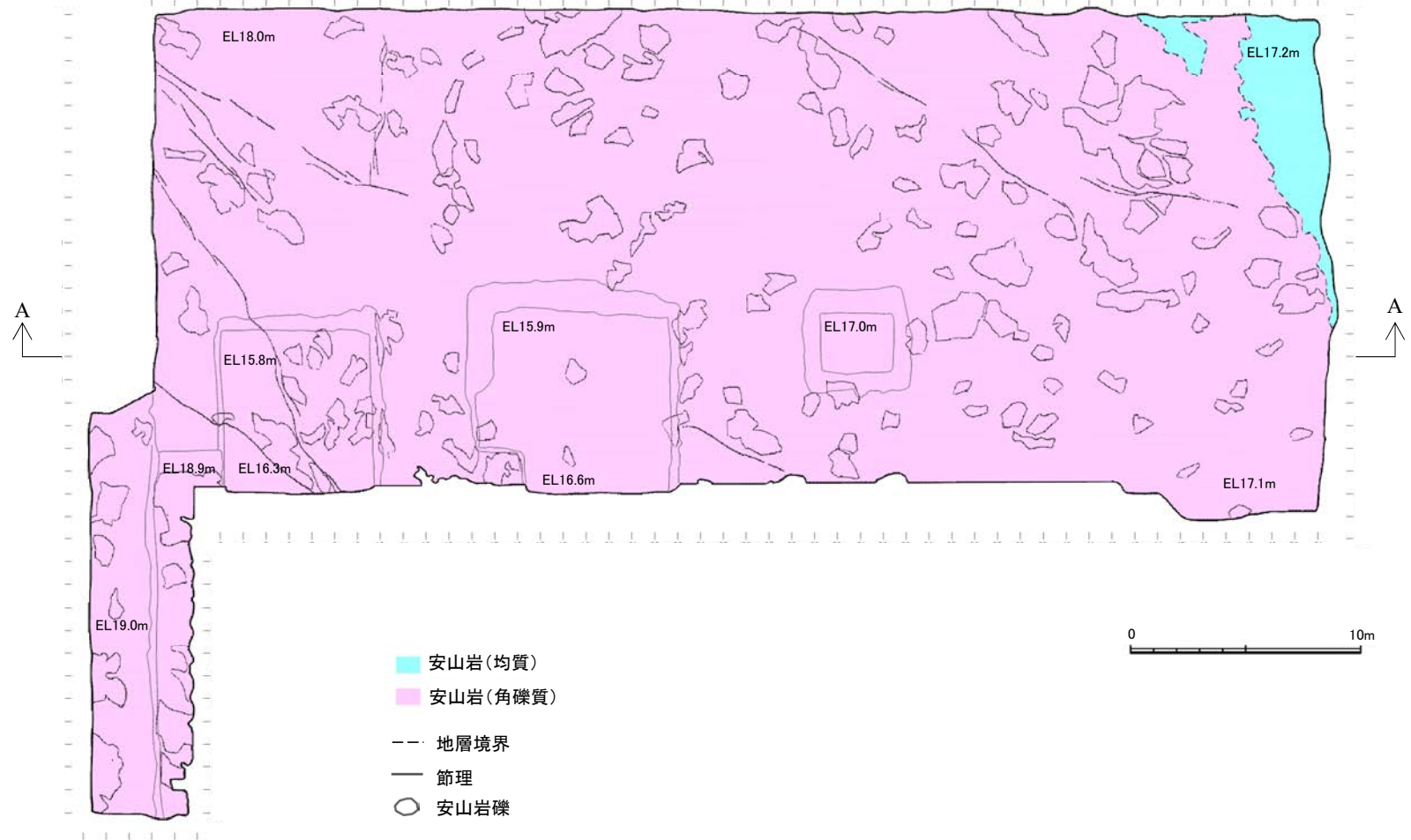


枠囲みの内容は商業機密又は防護上の観点から公開できません。

位置図



緊急時対策棟(増築棟)② 基礎地盤スケッチ



緊急時対策棟(増築棟) 基礎地盤スケッチ



概略断面図(A-A断面)

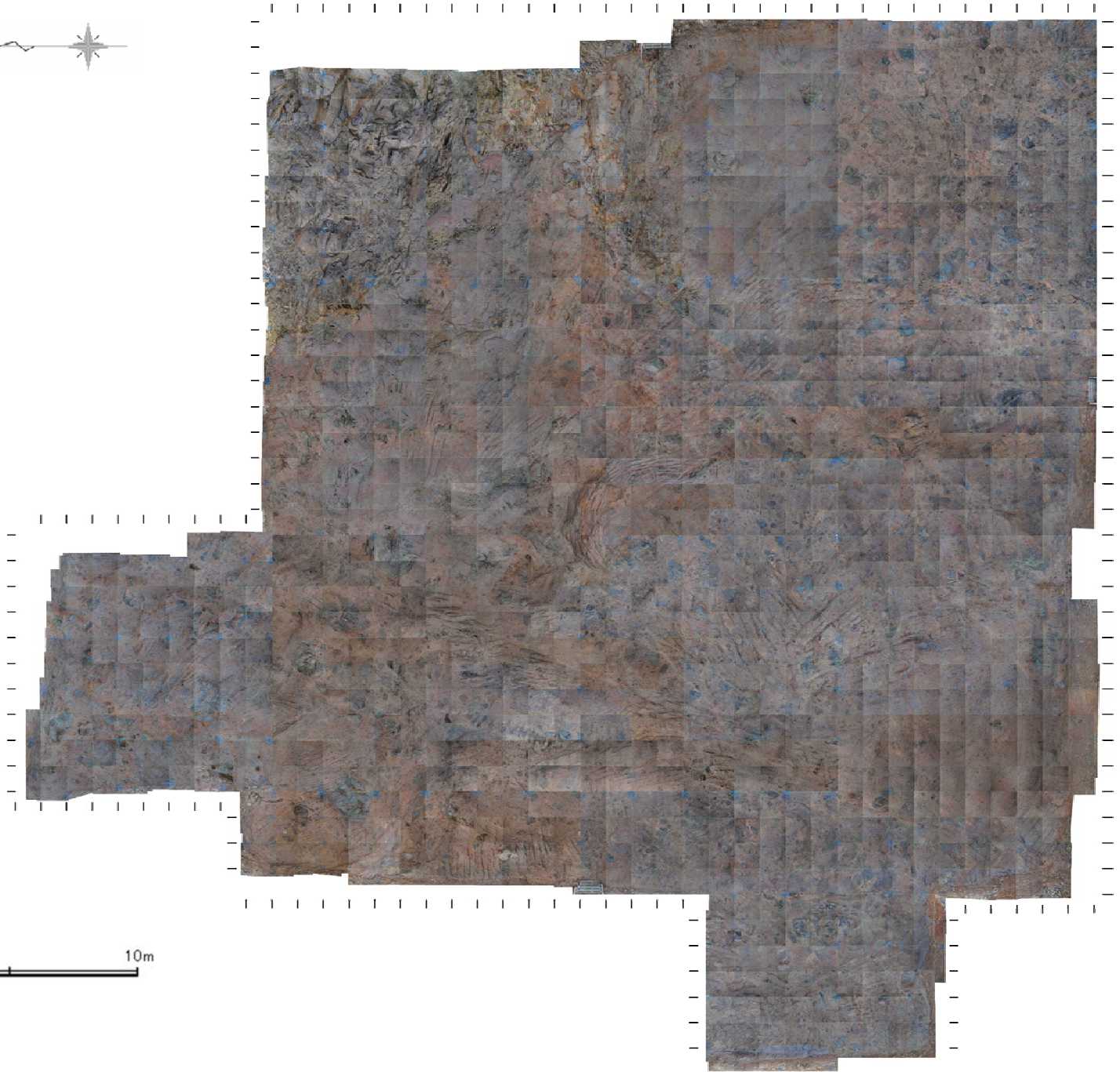
・緊急時対策棟(増築棟)基礎地盤には、断層は認められない。

南側大容量淡水貯水槽① 基礎地盤写真

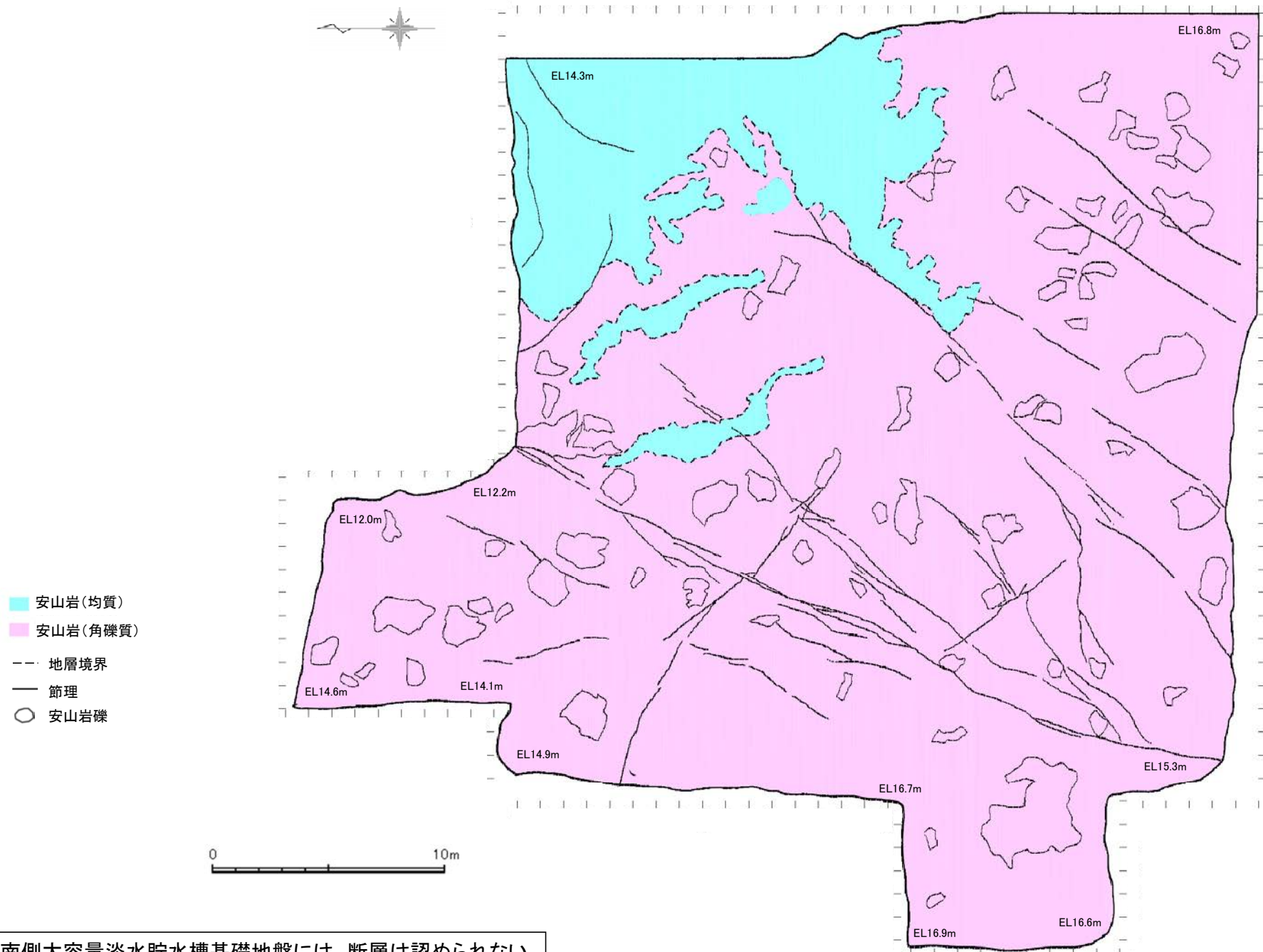


枠囲みの内容は商業機密又は防護上の観点から公開できません。

位置図



南側大容量淡水貯水槽② 基礎地盤スケッチ



・南側大容量淡水貯水槽基礎地盤には、断層は認められない。

東側大容量淡水貯水槽① 基礎地盤写真



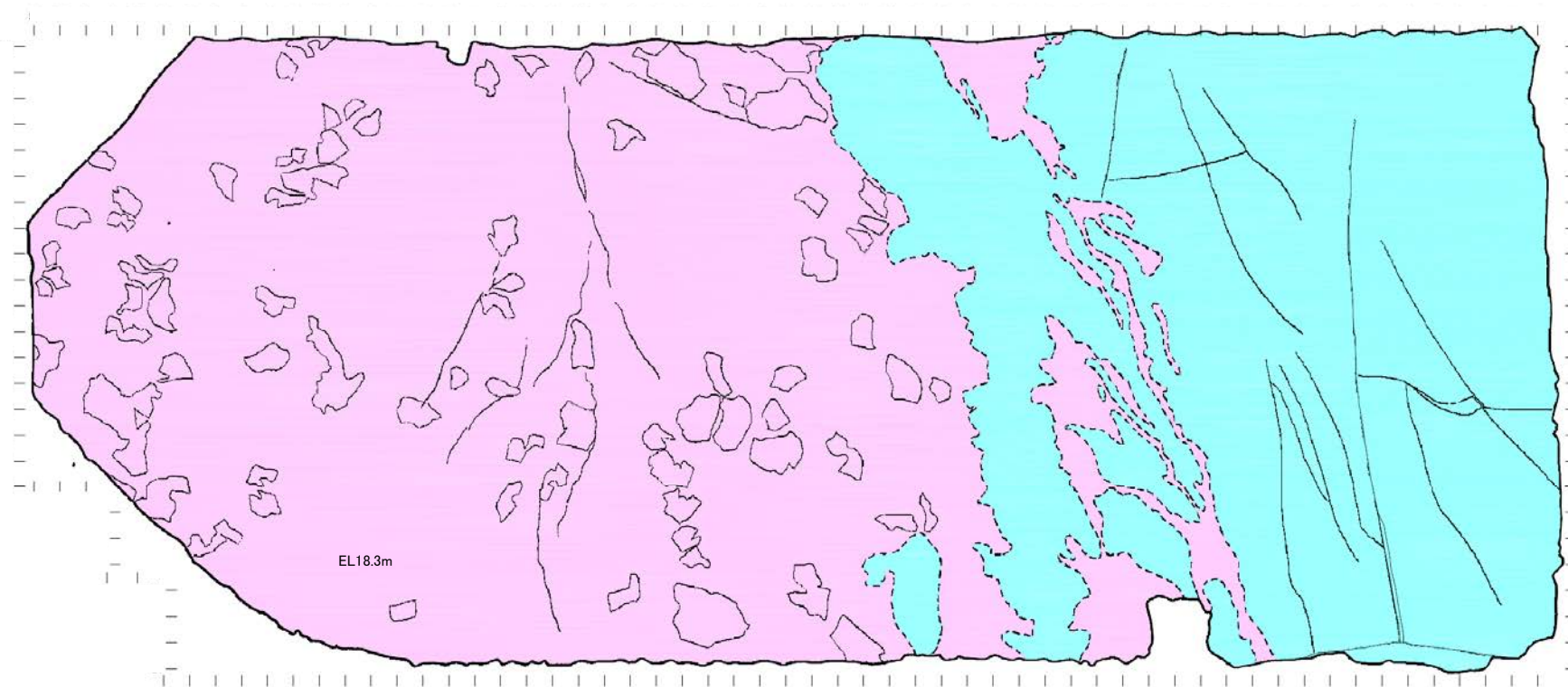
枠囲みの内容は商業機密又は防護上の観点から公開できません。

位置図



東側大容量淡水貯水槽 基礎地盤写真





- 安山岩(均質)
- 安山岩(角礫質)
- 地層境界
- 節理
- 安山岩礫

0 10m

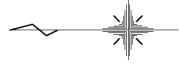
東側大容量淡水貯水槽 基礎地盤スケッチ

・東側大容量淡水貯水槽基礎地盤には、断層は認められない。



枠囲みの内容は商業機密又は防護上の観点から公開できません。

位置図

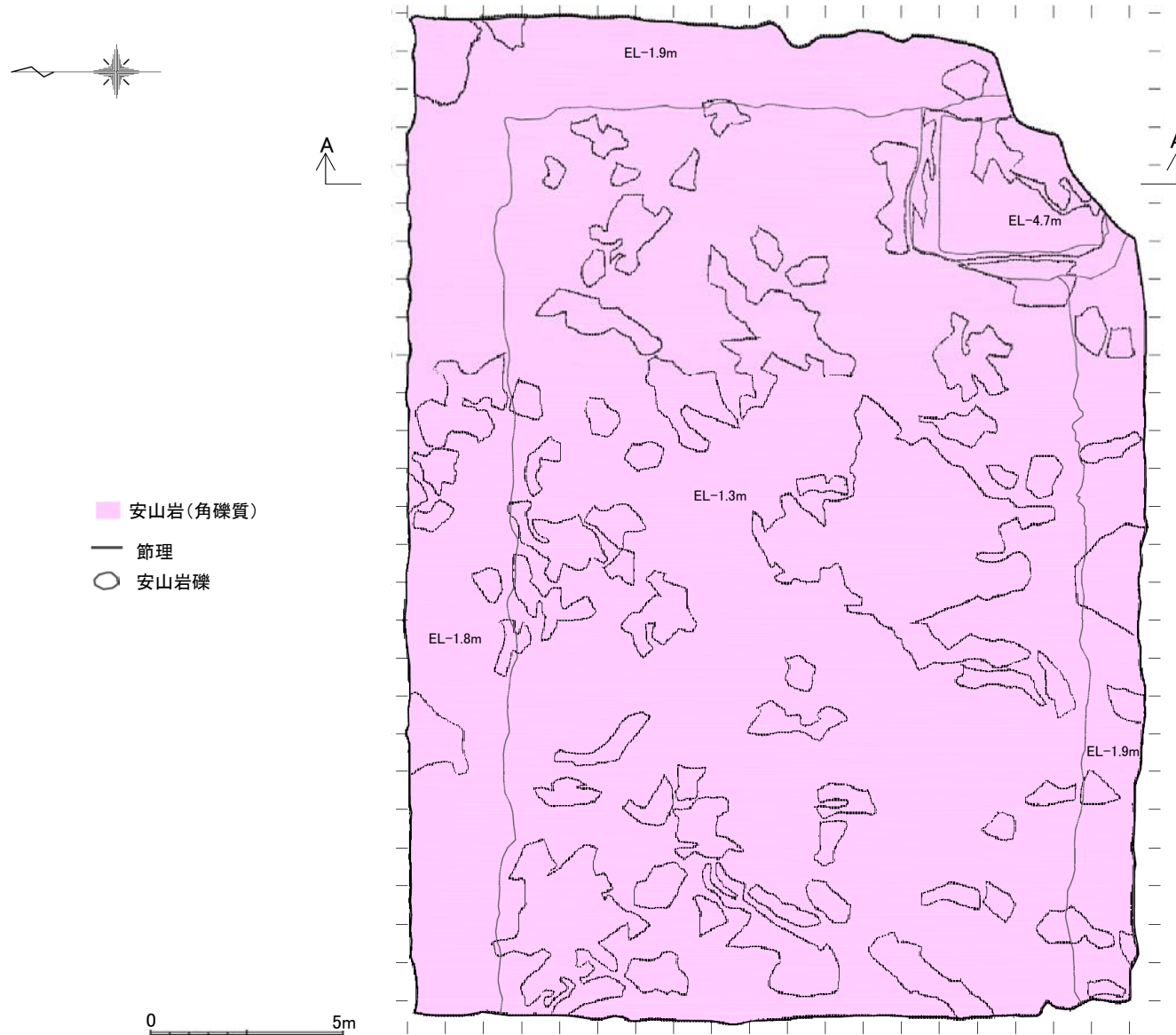


0 5m



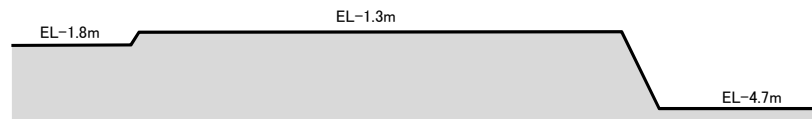
フィルタ付ベント装置建屋 基礎地盤写真

フィルタ付ベント装置建屋② 基礎地盤スケッチ



- 安山岩(角礫質)
- 節理
- 安山岩礫

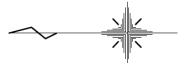
フィルタ付ベント装置建屋 基礎地盤スケッチ



概略断面図(A-A断面)

・フィルタ付ベント装置建屋基礎地盤には、断層は認められない。

地下式軽油タンク(DBA)ピット① 基礎地盤写真

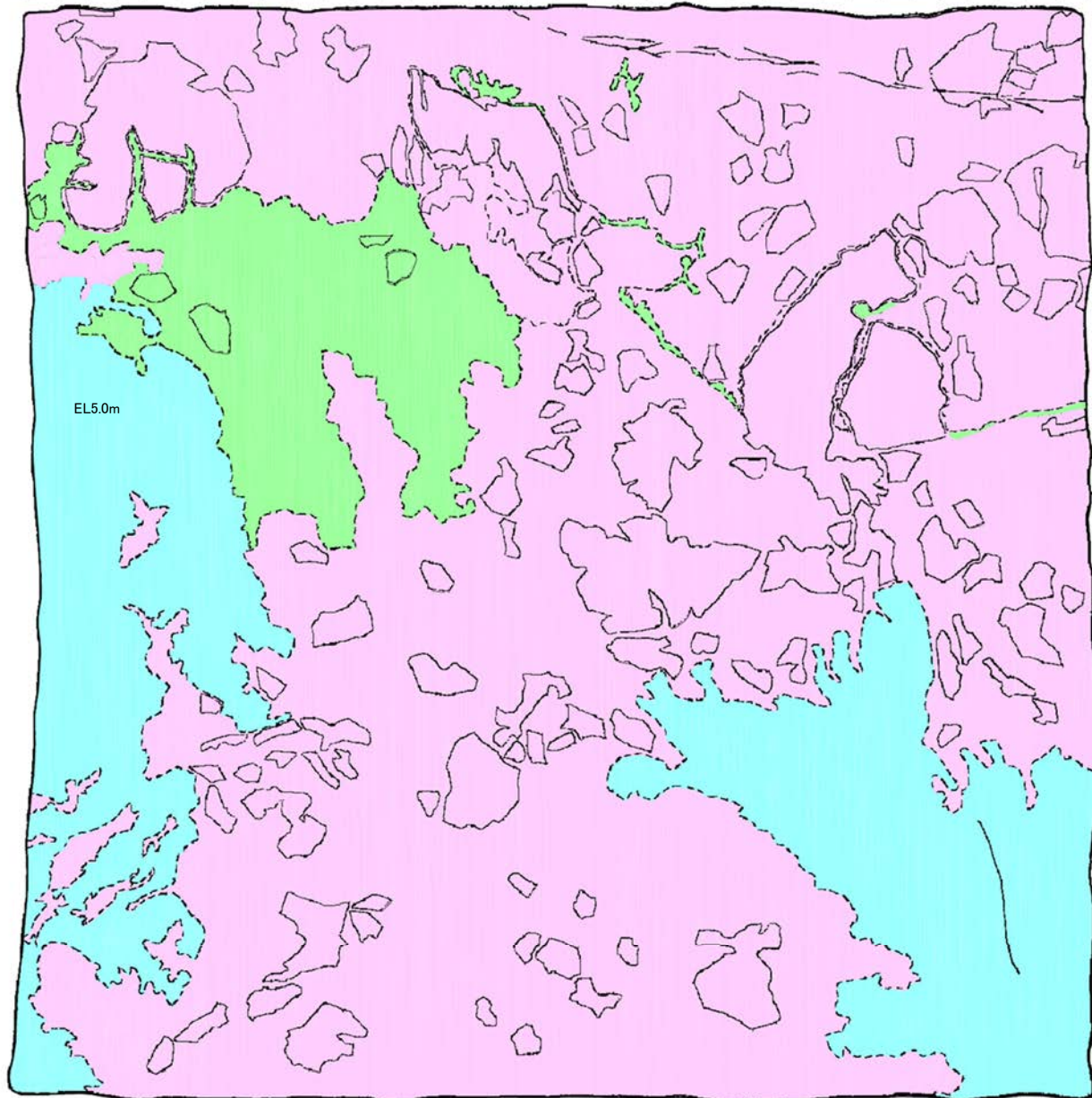


枠囲みの内容は商業機密又は防護上の観点から公開できません。

位置図



地下式軽油タンク(DBA)ピット② 基礎地盤スケッチ



- 安山岩(均質)
- 安山岩(角礫質)
- 凝灰角礫岩
- 地層境界
- 節理
- 安山岩礫



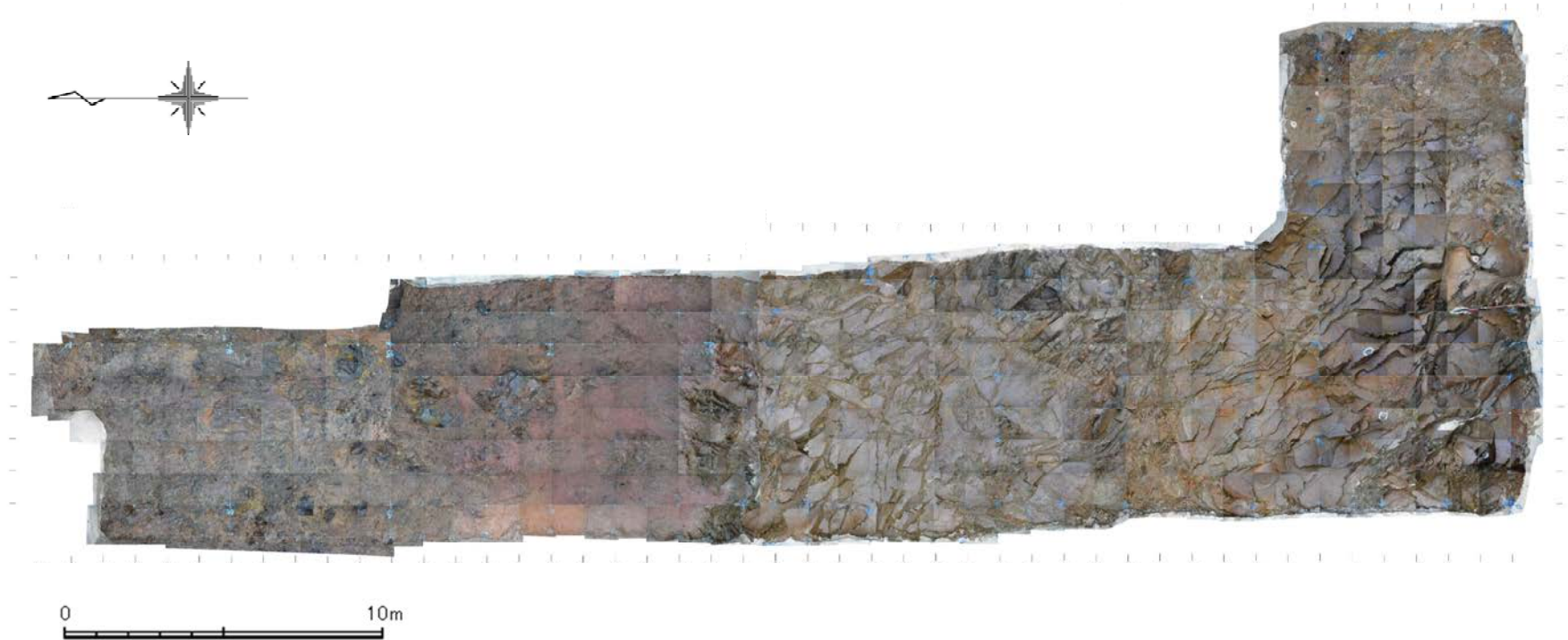
・地下式軽油タンク(DBA)ピット基礎底盤には、断層は認められない。

地下式軽油タンク(DBA)トレンチ① 基礎地盤写真



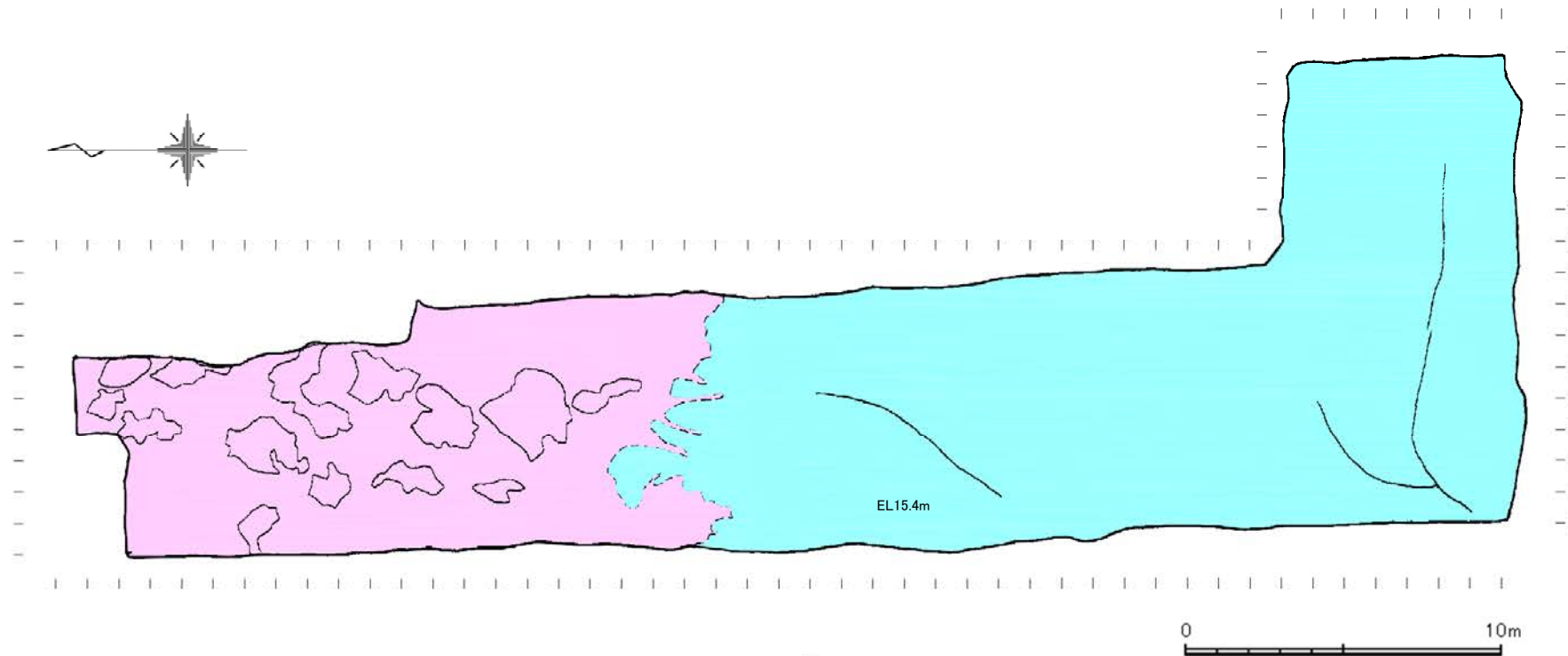
枠囲みの内容は商業機密又は防護上の観点から公開できません。

位置図



地下式軽油タンク(DBA)トレンチ 基礎地盤写真

地下式軽油タンク(DBA)トレンチ② 基礎地盤スケッチ



- 安山岩(均質)
- 安山岩(角礫質)
- 地層境界
- 節理
- 安山岩礫

地下式軽油タンク(DBA)トレンチ 基礎地盤スケッチ

・地下式軽油タンク(DBA)トレンチ基礎地盤には、断層は認められない。

代替所内電気設備建屋① 基礎地盤写真



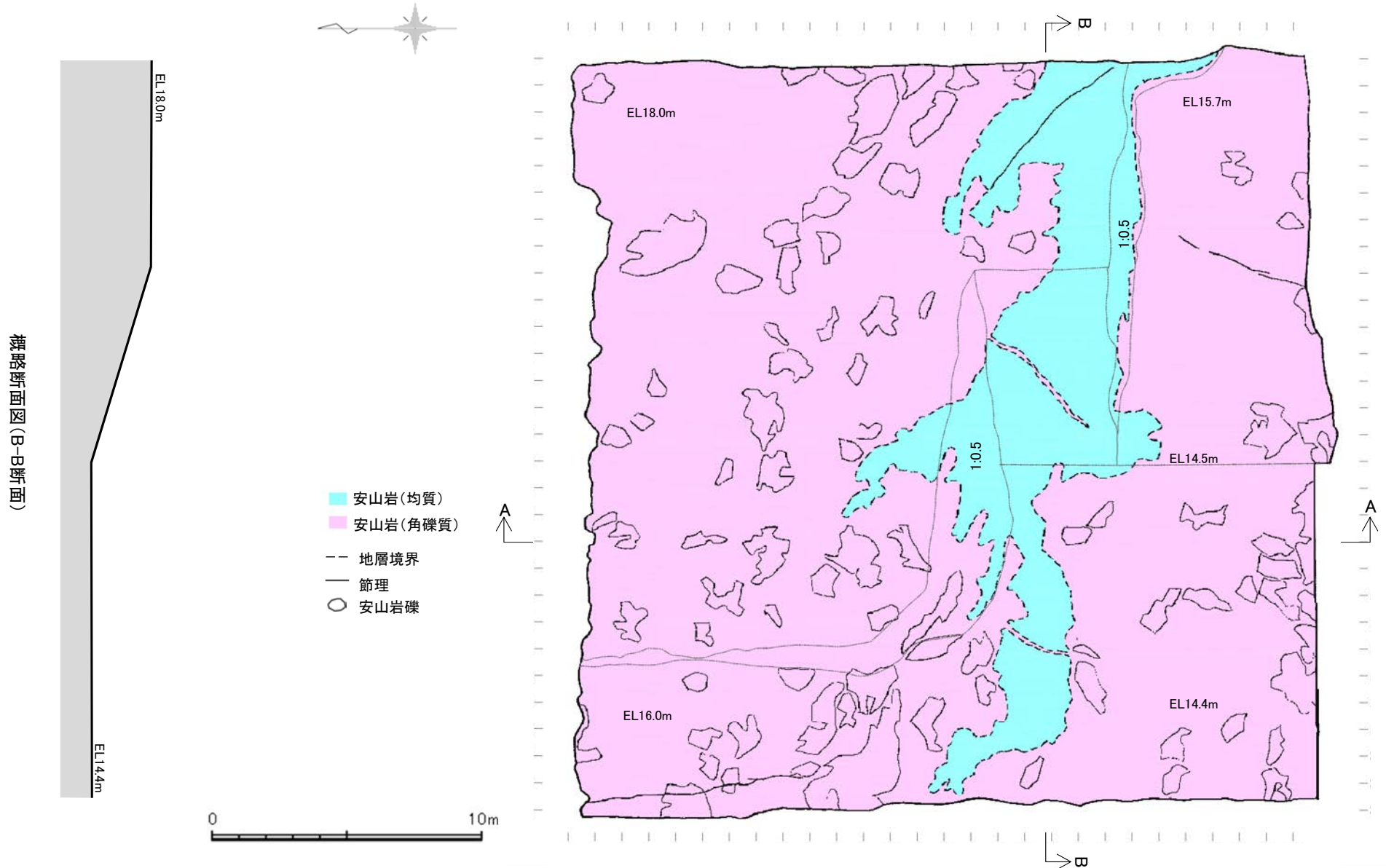
枠囲みの内容は商業機密又は防護上の観点から公開できません。

位置図

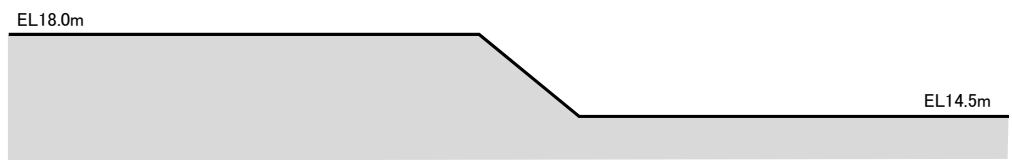


代替所内電気設備建屋 基礎地盤写真

代替所内電気設備建屋② 基礎地盤スケッチ



代替所内電気設備建屋 基礎地盤スケッチ



概略断面図(A-A断面)

・代替所内電気設備建屋基礎地盤には、断層は認められない。

代替所内電気設備建屋トレンチ① 基礎地盤写真



枠囲みの内容は商業機密又は防護上の観点から公開できません。

スケッチ位置図

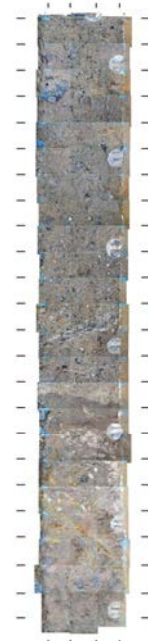
スケッチ範囲

枠囲みの内容は商業機密又は防護上の観点から公開できません。

位置図

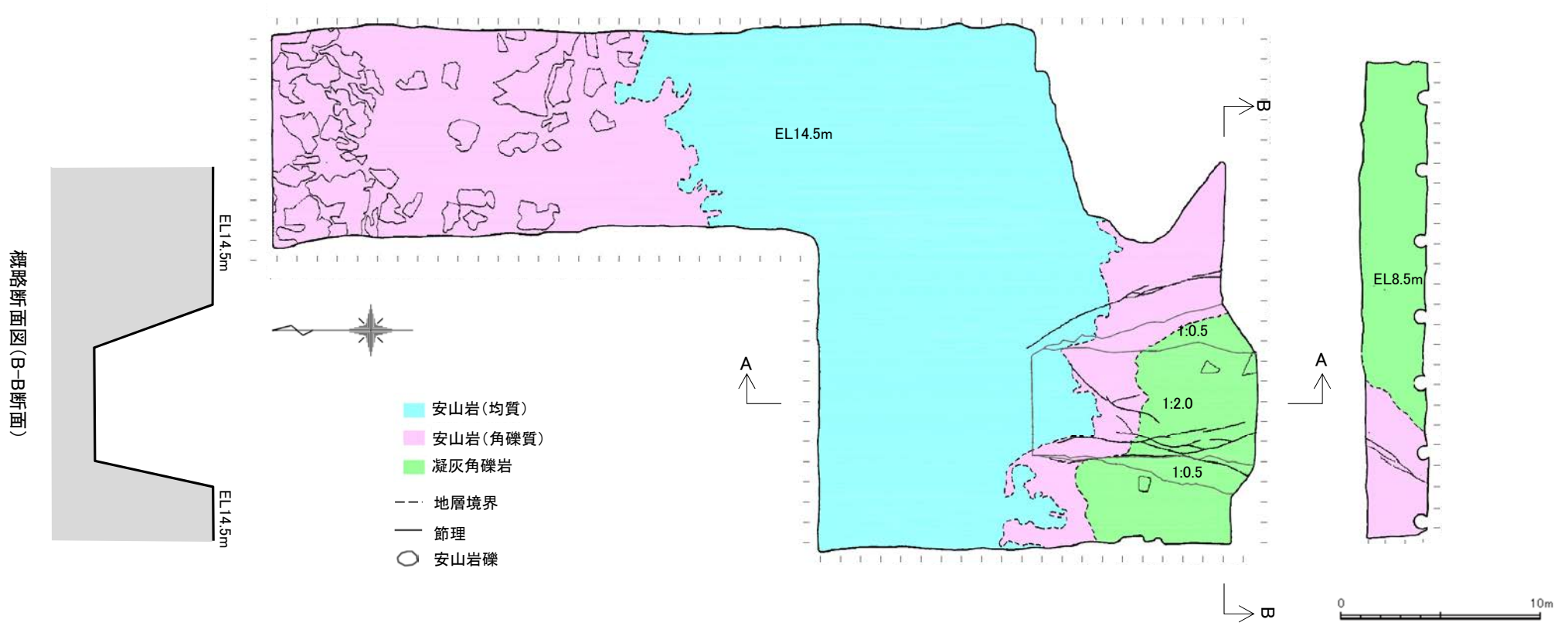
EL14.5m盤

EL8.5m盤



0 10m

代替所内電気設備建屋トレンチ② 基礎地盤スケッチ



代替所内電気設備建屋トレンチ 基礎地盤スケッチ



概略断面図(A-A断面)

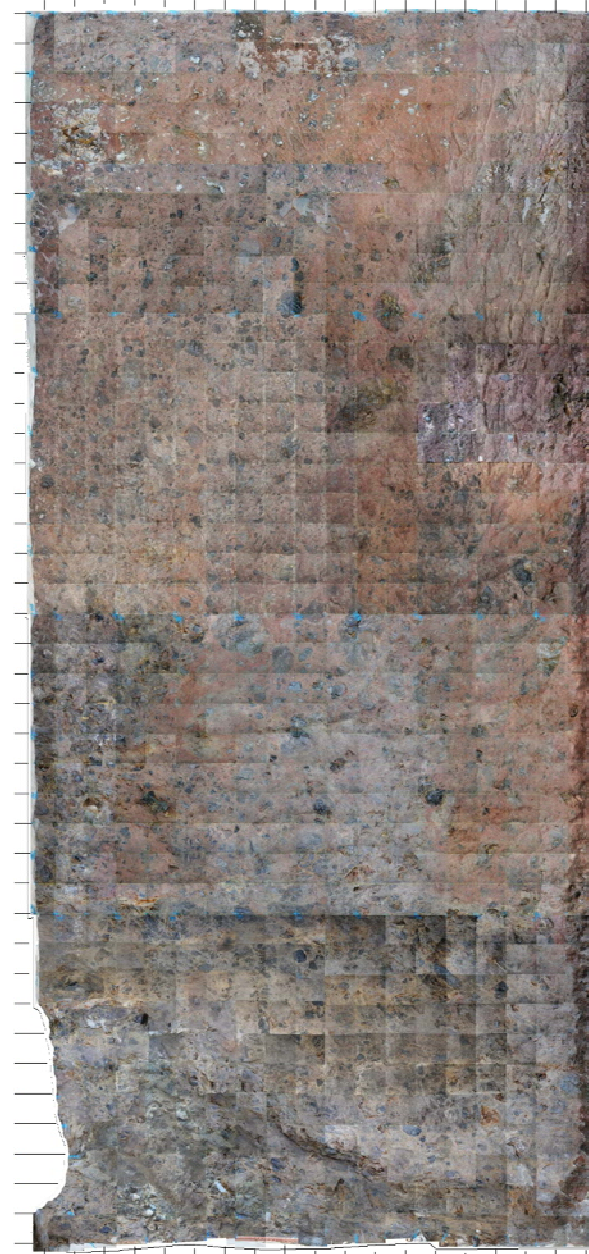
・代替所内電気設備建屋トレンチ基礎地盤には、断層は認められない。

地下式軽油タンク(SA)ピット① 基礎地盤写真

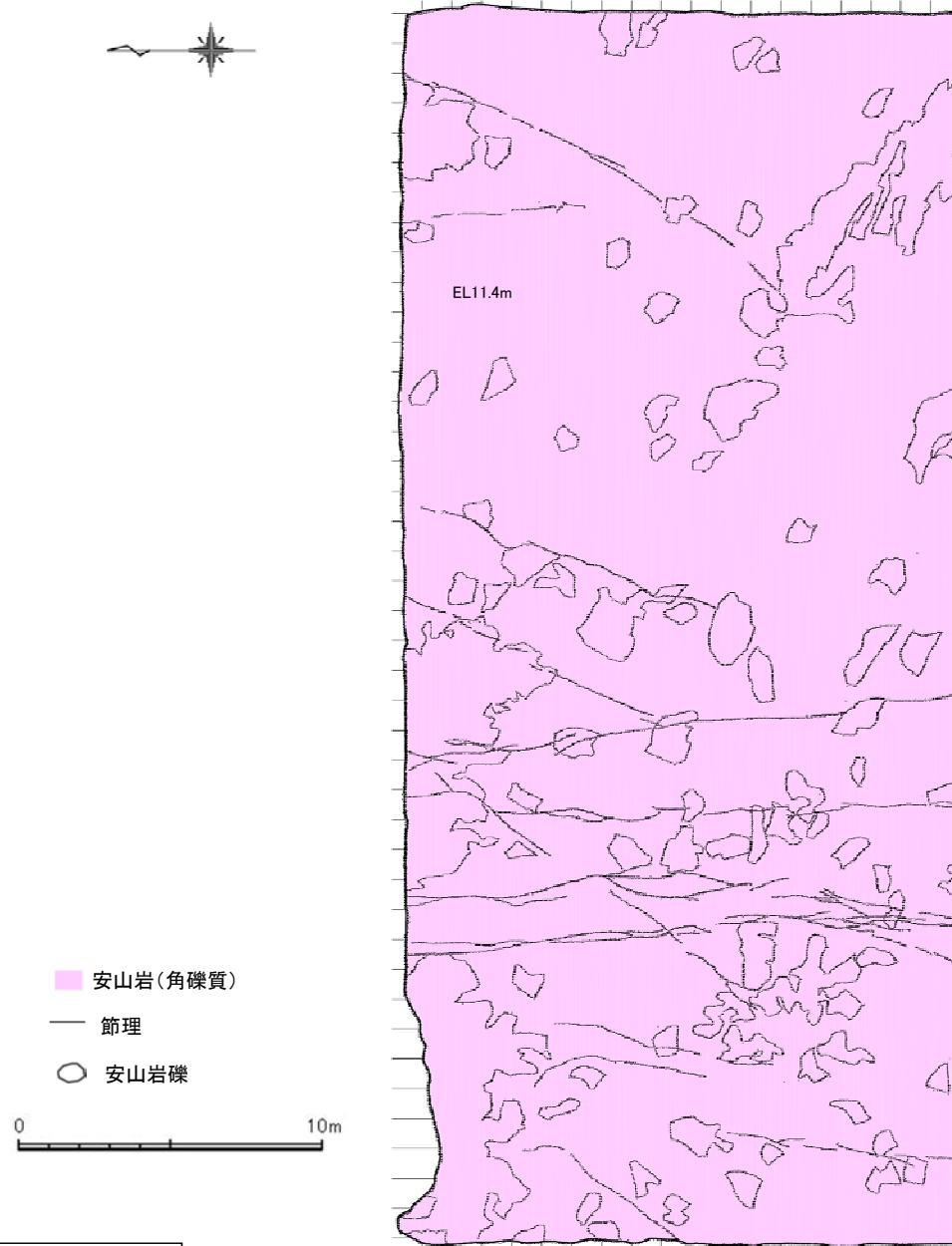


枠囲みの内容は商業機密又は防護上の観点から公開できません。

位置図



地下式軽油タンク(SA)ピット② 基礎地盤スケッチ



・地下式軽油タンク(SA)ピット基礎地盤には、断層は認められない。

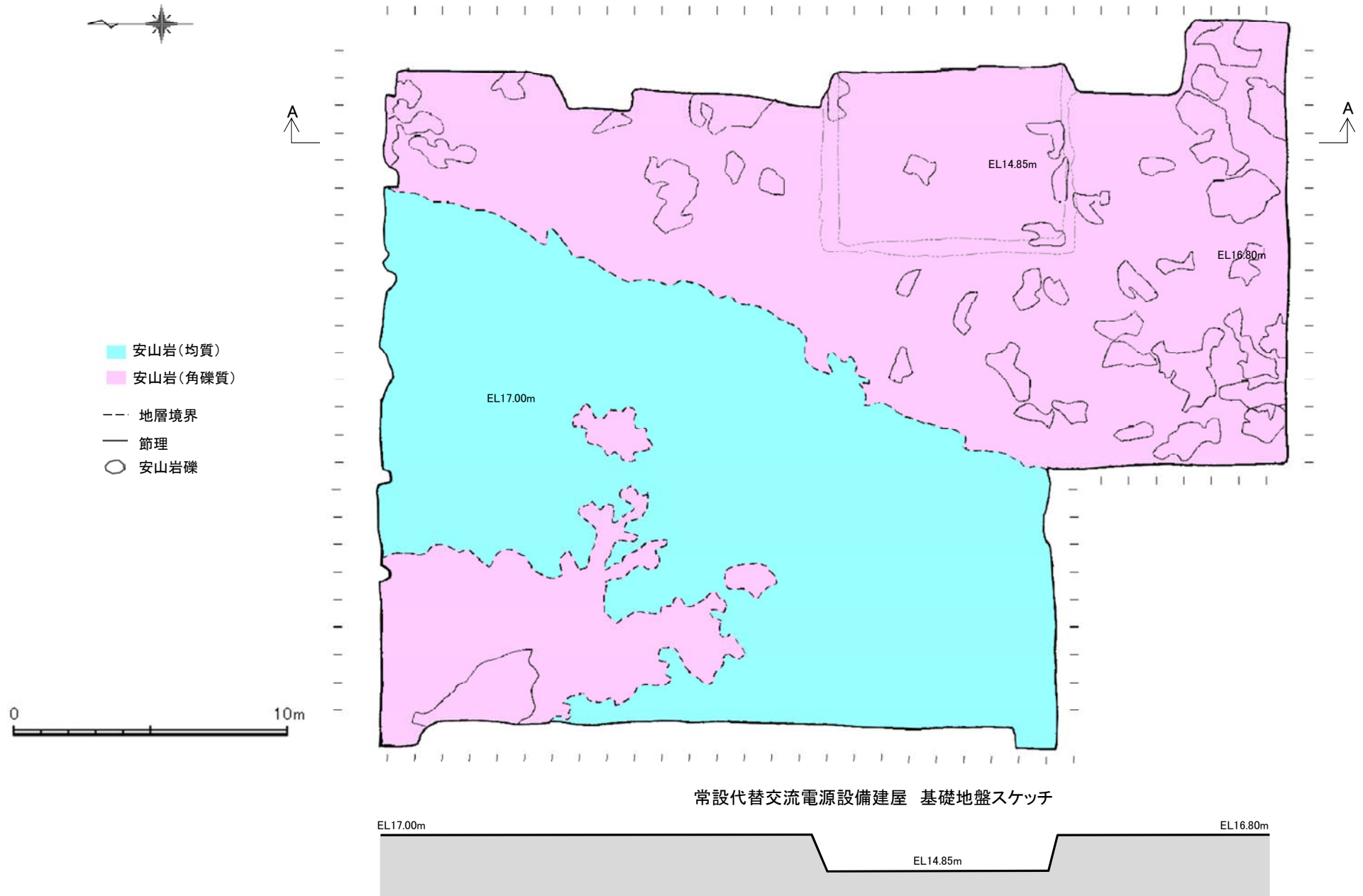


枠囲みの内容は商業機密又は防護上の観点から公開できません。

位置図



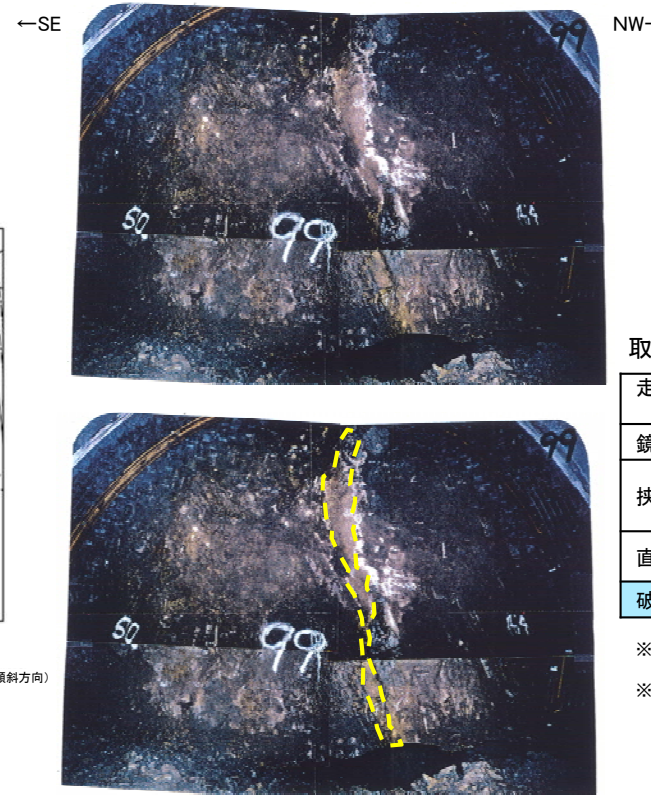
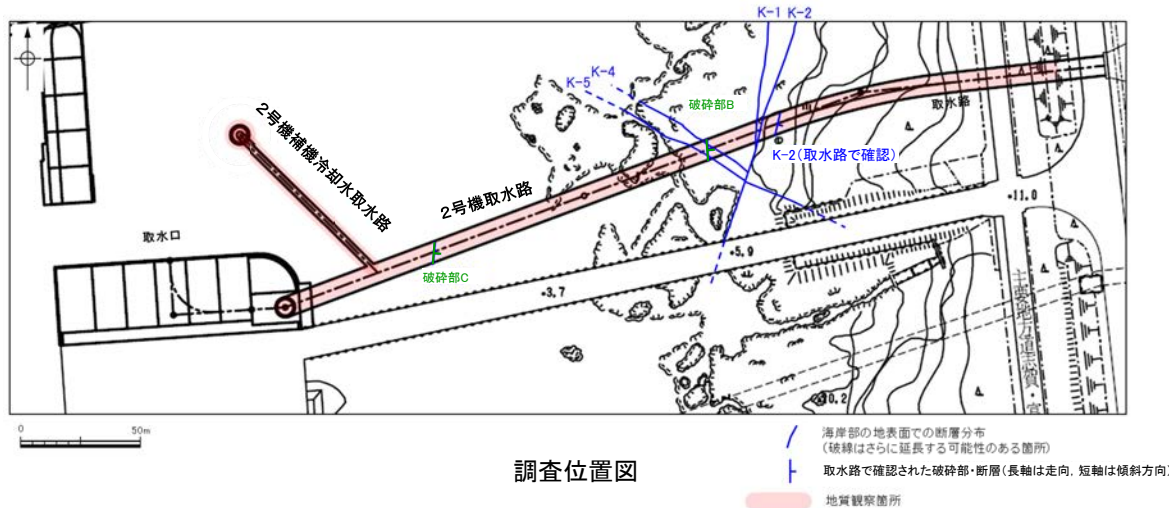
常設代替交流電源設備建屋 基礎地盤写真



概略断面図(A-A断面)

・常設代替交流電源設備建屋基礎地盤には、断層は認められない。

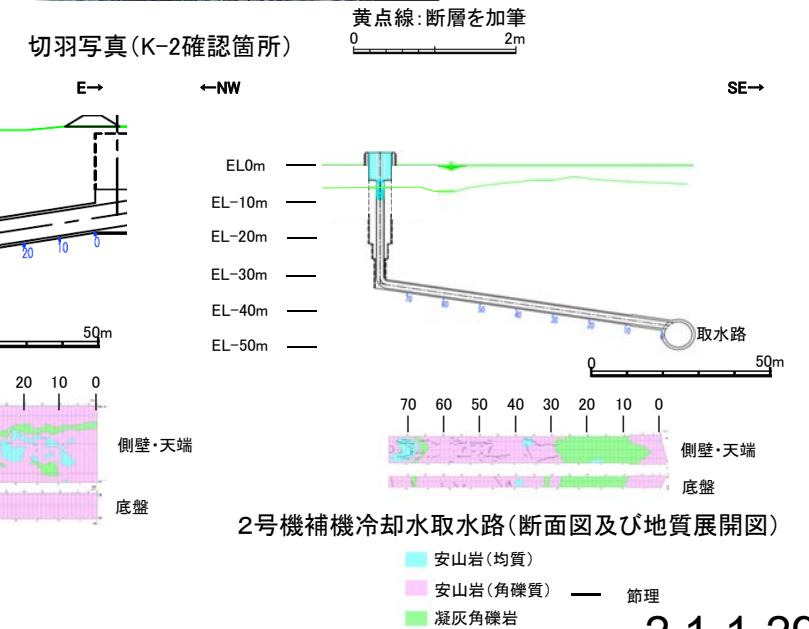
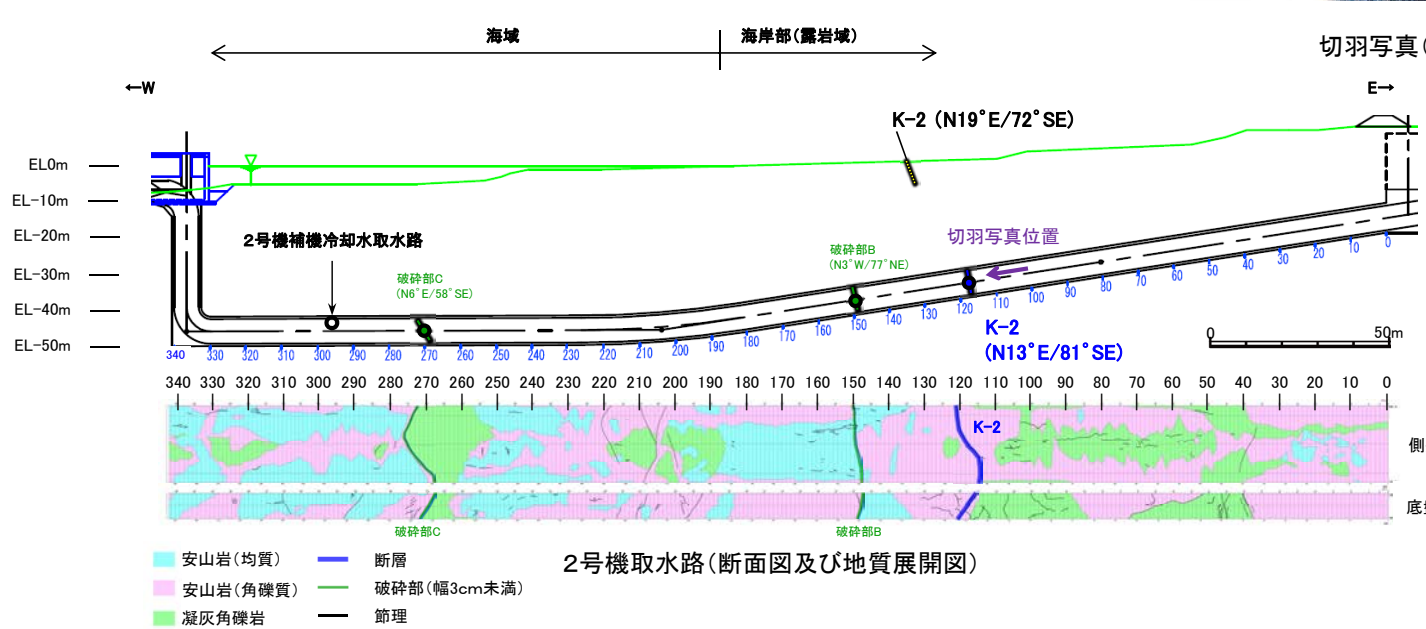
2号機取水路, 2号機補機冷却水取水路① 位置図,断面図,切羽写真



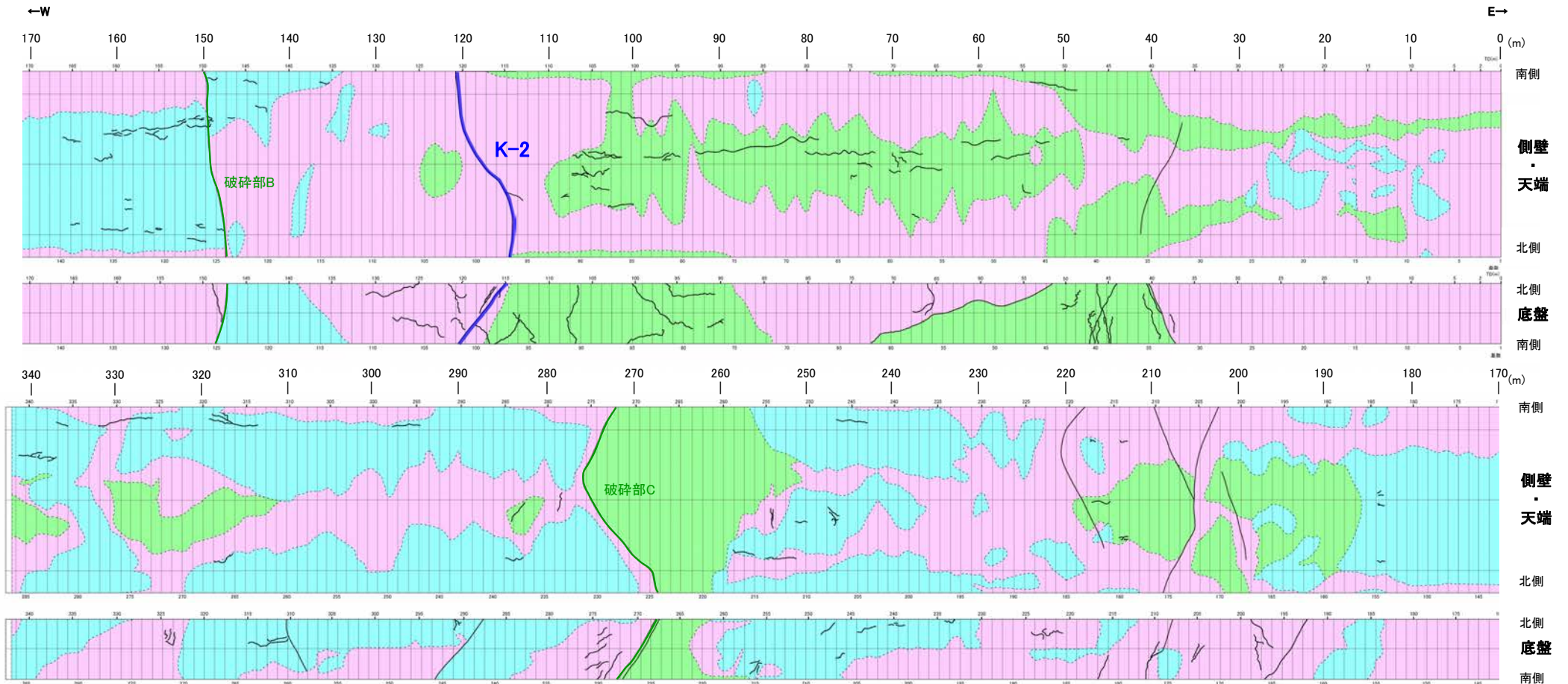
取水路で認められたK-2の性状

走向・傾斜※1 (走向は真北)	N13°E/81°SE	
鏡肌の有無	あり	
挟在物	厚さ	0.1~1cm
	物	粘土
直線性	直線性に乏しく凹凸する	
破砕部の幅	30cm※2	

※1 走向は底盤の一般走向, 傾斜はスケッチを基に断面全体から算出
 ※2 トンネル施工時の断層周辺の「基質部は脆弱」という記載を基に切羽写真から周辺に比べて変質している範囲を破砕部の幅とした。



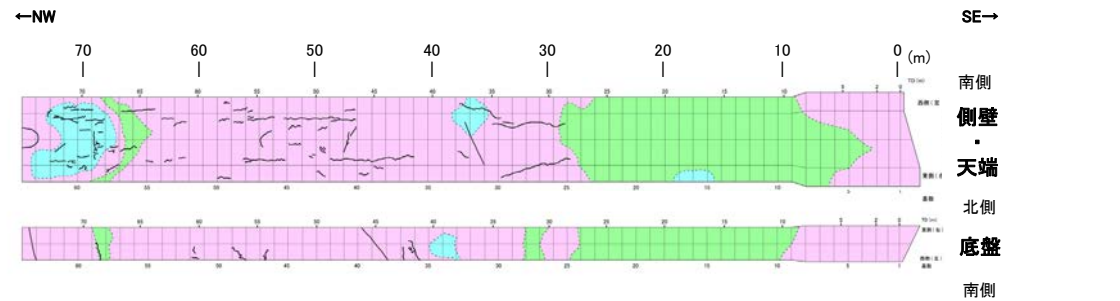
2号機取水路, 2号機補機冷却水取水路② 地質展開図



2号機取水路地質展開図

凡例

- 安山岩(均質)
- 安山岩(角礫質)
- 凝灰角礫岩
- 断層
- 破碎部(幅3cm未満)
- 節理



2号機補機冷却水取水路地質展開図

・2号機取水路では, K-2が確認される。

(3) 海岸部